

平成20年度

教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

(平成19年度対象)

平成21年1月23日

岡山県教育委員会

目 次

[はじめに]	1
I 平成19年度岡山県教育委員会の活動状況	2
1 定例教育委員会の開催状況	2
2 「平成19年度基本方針」に基づく個別の施策・事業等に関する 管理・評価	3
3 委員協議会の開催状況	7
4 意見交換会・懇談会等	8
5 「岡山県教育行政重点施策」の策定	8
II 平成19年度個別の施策・事業の実施状況	10
1 生涯学習の振興	11
2 家庭・地域社会の教育力の充実	18
3 学校教育の充実	27
4 伝統文化の振興	67
III 評価	75
1 岡山県教育委員会の活動に対する評価	75
2 個別の施策・事業に対する評価	75
(1) 生涯学習の振興	75
(2) 家庭・地域社会の教育力の充実	75
(3) 学校教育の充実	76
(4) 伝統文化の振興	77
IV 点検・評価に関する有識者からの意見	78
岡山県教育委員会委員	79
意見を頂いた教育に関する学識経験者	79
(参考資料)	
1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋 ※平成20年4月1日施行 第27条	
2 条例、規則等の制定・改廃	

[はじめに]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正により、平成20年4月から、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととなりました。

どのような点検・評価を行うか、また、報告書の様式、議会への報告の方法などについては、各教育委員会が実情を踏まえて決定することとなっております。

教育委員会は、法第23条に定める教育に関する事務（法第24条の2により当該地方公共団体の長が行うものを除く。）を管理・執行することとされておりますが、教育行政においては、その中立性や継続性を確保するとともに、住民の様々な考えや多様な価値観などを尊重しながら、豊かな発想や創意工夫を生かした施策の展開が求められております。

このため、教育、文化、学術、スポーツ、経済、福祉等の様々な分野に関する知識や経験を有する委員が、それぞれの識見に基づき合議し、教育行政の基本方針などを決定することとされております。

教育委員会の決定を受けて、その指揮監督の下に教育長が具体の事務をつかさどることとされており、さらに、具体の事務処理のため、教育長は事務局の事務を総括し、所属の職員を指揮監督することとされております。

そうしたことから、岡山県教育委員会では、教育行政の基本方針の決定、教育委員会規則の制定、所管に属する学校その他の教育機関の設置・廃止等重要案件については、事務局が作成した案に対し、必要に応じ、委員協議会での事前協議、現地視察、複数日での協議などにより、議論を尽くして、決定してまいりました。

そして、教育委員会により決定された基本方針に基づき、教育長を長とする事務局に、日々の教育事務を執行させているところであります。

本報告書は、Ⅰにおいて、平成19年度岡山県教育委員会の活動状況を記載し、Ⅱにおいて、平成19年度の個別の施策・事業について、「平成19年度教育行政重点施策」における施策の大項目ごとに整理し、その実施状況を記載しております。

Ⅲには、岡山県教育委員会及び個別の施策・事業に対する評価を記載しております。

Ⅳには、この報告書の点検・評価に関する有識者からの意見を掲載しております。

岡山県教育委員会としては、点検及び評価の実施を通じて施策の効果の検証と改善を絶えず図りながら、教育施策の着実な推進に努めていきたいと考えております。

本報告書を県議会に報告させていただきますとともに、県民の皆様の御理解と御協力につきまして、よろしく願いいたします。

平成21年1月

岡山県教育委員会

I 平成19年度岡山県教育委員会の活動状況

人口減少社会の到来や少子・高齢化の急激な進展、社会経済構造の変化など、時代が大きな変革期を迎えている中、これからの時代を担う人づくりのために教育の果たすべき役割は非常に大きなものがあります。

特に、教育基本法の改正に始まり、教育3法の改正、学習指導要領の改訂など、教育をめぐる状況は今まさに大きな改革・変動の時期にあり、教育の責任ある担い手として当事者意識をしっかりと持ちながら、地方から教育改革を進めるとの強い決意を持って臨んでいかなければなりません。

岡山県教育委員会としては、子どもたちの明るい笑顔と豊かな人生のため、また、活力ある地域社会づくりのために、本県独自の教育施策も積極的に実施しながら、家庭・地域社会とも連携を図りつつ、創意工夫を生かした教育行政を推進してまいりたいと考えております。

そうしたことから、岡山県教育委員会では、小・中・高等学校、特別支援教育や教育機関、各地域の教育活動の状況を把握するため現地を訪問し、関係者の生の声を把握し、その上で、岡山県の実情に応じた教育施策の決定に努めてきました。

また、事務局からの提案に対しても、各委員がそれぞれの専門性、識見に基づき、様々な角度から真剣に議論し、事業によっては、委員協議会の開催や複数回での審議を行ってきました。

1 定例教育委員会の開催状況

岡山県教育委員会は、教育長及び事務局の事務執行状況を管理・評価するため、平成19年度は、年間18回の定例教育委員会を開催し、議案21件、協議事項18件、報告事項50件などについて審議等を行いました。

(資料1) 定例教育委員会の開催状況

	開催月日	議案	協議事項	報告事項	資料提供	その他	計
1	平成19年4月12日(木)	0	0	3	2	1	6
2	平成19年4月27日(金)	0	0	3	1	3	7
3	平成19年5月18日(金)	0	2	2	3	0	7
4	平成19年6月1日(金)	0	0	4	3	2	9
5	平成19年7月6日(金)	4	0	5	4	1	14
6	平成19年7月27日(金)	2	2	2	4	4	14
7	平成19年8月24日(金)	1	2	1	4	3	11
8	平成19年9月7日(金)	0	1	3	2	2	8
9	平成19年10月5日(金)	0	1	5	8	1	15
10	平成19年10月19日(金)	3	0	3	2	2	10
11	平成19年11月1日(木)	2	0	0	2	2	6
12	平成19年11月16日(金)	2	2	4	2	3	13
13	平成19年12月21日(金)	0	2	1	4	2	9
14	平成20年1月11日(金)	0	1	2	1	2	6
15	平成20年1月25日(金)	1	0	1	1	0	3
16	平成20年2月8日(金)	0	1	3	3	1	8
17	平成20年2月22日(金)	1	2	6	3	2	14
18	平成20年3月21日(金)	5	2	2	4	1	14
	計	21	18	50	53	32	174

2 「平成19年度基本方針」に基づく個別の施策・事業等に関する管理・評価

個別の施策・事業等については、定例教育委員会において、「平成19年度岡山県教育行政基本方針」に基づき、事務局からの協議・報告に対し基本的な方向性を決定するなど、適切な管理・評価に努め、広範囲にわたる教育行政施策を着実に推進してきました。

(資料2)「平成19年度岡山県教育行政基本方針」

今日の変化の激しい社会に適切に対応しながら、生涯にわたって心豊かにたくましく生きていく力を持つとともに、豊かで活力ある社会を築き、支えていく意欲と実践力を備えた新時代を担う人間の育成が重要です。

岡山県教育委員会では、「おかやま教育ビジョン」や「岡山県人権教育推進プラン」等を踏まえ、人間尊重の精神を基調とし、「生涯学習社会おかやま」の実現を目指して、生涯学習、家庭・地域社会の教育、学校教育、伝統文化の各分野にわたる教育行政を長期的な展望に立ちながら「新おかやま夢づくりプラン」等に基づいて総合的に推進します。

特に、「確かな学力」と「豊かな心」の育成を重要な柱と捉え、子ども一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着や自ら学び考える力の育成に努めるとともに、学校外の多彩な人材も積極的に活用しながら活性化を図ります。

また、いじめ問題等の解決に向けて重点的に取り組むとともに、学校・家庭・地域社会が一体となり、様々な体験などの活動機会の充実や、子どもの安全確保など、地域と協働で子どもを心身ともに健やかに育てる気運の醸成を図ります。

さらに、多様化・複雑化している教育課題に適切に対応するため、教職員の一層の資質向上を図ります。

諸施策の推進に当たっては、市町村合併により体制が強化された市町村教育委員会や教育関係団体等との連携を一層緊密にするとともに、適切な役割分担のあり方にも配慮しつつ、広く県民の理解と協力を得て、積極的に推進します。

(資料3) 個別の施策・事業等に関する審議状況

(1) 生涯学習の振興

■生涯学習推進体制の整備・充実

[平成19年7月6日(金)]

○第19回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア岡山2007)「100日前イベント」について

[平成19年7月27日(金)]

○第19回全国生涯学習フェスティバル実施本部の設置について

○第19回全国生涯学習フェスティバル総合開会式・閉会式の入場者募集について

[平成19年10月5日(金)]

○第19回全国生涯学習フェスティバルの実施について

・フェスティバルガイドブック、フェスティバル記念事業について

[平成19年10月19日(金)]

○第19回全国生涯学習フェスティバルについて

・フェスティバル記念事業・わがまちの未来に残したい「ひと」「まち」写真展の審査結果について

[平成19年11月16日(金)]

○第19回全国生涯学習フェスティバルについて

・参加来場者概数、出展・参加団体数、事業数の速報について

(その他の主な審議内容)

・岡山県生涯学習審議会委員の任命

■生涯学習環境の整備・充実

[平成19年4月27日(金)]

○岡山県立図書館の入場者数について

・入館者数、資料収集状況、相互貸借の状況、デジタル岡山大百科について

[平成19年10月5日(金)]

○岡山県渋川青年の家、岡山県青少年教育センター閑谷学校の指定管理者への応募状況について

(2) 家庭・地域社会の教育力の充実
■家庭の教育力の充実 [平成20年1月11日(金)] ○平成19年度すこやか子育て川柳について
■地域社会の教育力の充実 [平成20年2月22日(金)] ○岡山県社会教育委員の会議の審議状況について、当会議が作成している実践事例集について
■学校・家庭・地域社会の連携強化 [平成19年9月7日(金)] ○「早ね早おき朝ごはん」県民運動推進について [平成19年12月21日(金)] ○第2次岡山県子ども読書活動推進計画の策定について [平成20年2月22日(金)] ○第2次岡山県子ども読書活動推進計画(案)について
■人権教育の推進 [平成19年6月1日(金)] ○平成19年度人権教育推進委員会について ・委員、平成19年度の審議予定について [平成19年10月19日(金)] ○保護者向けリーフレット「STOP!いじめ」について [平成20年2月22日(金)] ○人権教育推進状況報告書のまとめについて ・学校教育における人権教育推進上の課題と取組の概要、社会教育における人権教育推進上の課題と取組の概要について ○人権学習ワークシート集について ・「人権教育指導資料V 人権学習ワークシート集(上)」の刊行について

(3) 学校教育の充実
■学力向上の推進 [平成19年4月27日(金)] ○全国学力・学習状況調査の実施について ・調査の目的、実施校、調査後の取組について [平成19年7月6日(金)] ○県立高等学校の訪問結果について ・学校訪問の目的、聴取・情報交換事項、特色ある教育活動について [平成19年7月27日(金)] ○県立学校平成20年度使用教科用図書の採択について [平成19年10月19日(金)] ○第10回全国環境学習フェア(岡山大会)の実施について [平成19年11月16日(金)] ○平成19年度全国学力・学習状況調査の分析結果について ・調査の概要、調査結果の概要、教科ごとの分析と改善のポイントについて [平成20年1月11日(金)] ○「学力向上健やかフォーラム2008inおかやま」の開催について ・岡山県検証改善委員会主催の「学力向上健やかフォーラム2008inおかやま」のプログラムについて [平成20年1月25日(金)] ○全国学力・学習状況調査に係る保護者向けリーフレットについて ・「保護者のみなさまへ子どもたちの学習や家庭生活をともに考えてみませんか」の内容について [平成20年3月21日(金)] ○「全国学力・学習状況調査」最終報告書について ・調査の概要、調査結果と分析の概要、教科ごとの分析と授業改善、教育委員会・学校における事例について

■心の教育の推進

[平成19年5月18日（金）]

- いじめ対策行動推進会議の設置について
 - ・設置の趣旨、協議事項及びスケジュール、会議の具体的な取組について

[平成19年7月27日（金）]

- 教育相談の実施状況について
 - ・教育事務所教育相談状況、県教育センター相談状況について

[平成19年8月24日（金）]

- 児童生徒の問題行動等に関する調査結果（速報）について
 - ・本県の公立学校におけるいじめを認知した学校数、いじめの認知件数、高等学校中途退学者の状況、不登校の状況、公立学校における暴力行為の発生状況について

[平成19年9月7日（金）]

- 全国高等学校総合文化祭の成績について

[平成19年11月16日（金）]

- 児童生徒の問題行動等に関する調査結果について
 - ・全国の公立学校におけるいじめを認知した学校数、いじめの認知件数、高等学校中途退学者の状況、不登校の状況、公立学校における暴力行為の発生状況について

[平成20年3月21日（金）]

- 岡山県学校文化関係表彰について
 - ・明誠学院高等学校書道部、明誠学院高等学校吹奏楽部、津山市立北陵中学校吹奏楽部の表彰について

■高等学校教育体制の整備・充実

[平成19年7月6日（金）]

- 平成20年度岡山県立高等学校の学科の設置等について
 - ・玉島商業高等学校ビジネス情報科の設置、高梁城南高等学校環境科学科の設置、玉野高等学校国際科の廃止、総社高等学校普通科自然探究コースの設置、岡山操山高等学校通信制課程による ICT（情報通信技術）を活用した学習支援システムの導入について
- 平成20年度岡山県立高等学校入学者選抜実施大要について
 - ・くくり募集の拡大（普通科と理数科の間）など、主な変更点について
- 平成20年度岡山県立中学校入学者選抜実施大要について
- 自己推薦による入学者選抜に関する意識調査について

[平成19年7月27日（金）]

- 県立高等学校の再編整備について
 - ・真庭地域、弓削高校について

[平成19年9月7日（金）]

- 平成20年度県立高等学校第1学年生徒募集定員策定方針について

[平成19年10月19日（金）]

- 平成20年度県立高等学校第1学年生徒募集定員の策定について

■特別支援教育の推進

[平成19年5月18日（金）]

- 平成19年度岡山県立特別支援学校への就学等の状況について
 - ・岡山県立特別支援学校の新規就学児童生徒数、幼児児童生徒数、卒業生の進路状況について

[平成19年6月1日（金）]

- 教科用図書選定審議会の答申について

[平成19年7月27日（金）]

- 特別支援教育の取組について

■学習環境の整備・充実

[平成19年7月27日（金）]

- 高校生「県産材活用」UD※整備事業及び高校生「エコ広場」UD整備事業について
（※UD：ユニバーサルデザイン）

[平成19年10月5日（金）]

- 平成20年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験の結果について

[平成19年10月19日（金）]

- 平成19年度末校長・教員等人事異動要綱について

[平成19年11月16日（金）]

- 岡山県公立学校教職員の希望降任制度実施要綱について

[平成19年12月21日（金）]

- 県立学校施設の耐震化状況について

[平成20年2月8日（金）]

- 教員免許更新制の概要について
・目的、免許状の有効期間、免許状更新講習、今後のスケジュールについて

[平成20年2月22日（金）]

- 高校生「県産材活用」UD整備事業及び高校生「エコ広場」UD整備事業について
・高校生「県産材活用」UD整備事業（県立倉敷商業高等学校、県立岡山聾学校）、高校生「エコ広場」UD整備事業（県立備前緑陽高等学校、県立久世高等学校）の完成について

■体育・健康教育の充実

[平成19年4月12日（木）]

- 食育から広げる生活リズム向上プランについて
・具体的な取組及び家庭向けリーフレットの内容等について

[平成19年5月18日（金）]

- 平成19年度学校運動部活動活性化事業について
・趣旨、事業内容、実施校について

[平成19年6月1日（金）]

- 自主的な活動への支援について～犯罪のない安全・安心岡山県づくり～
・安全・安心岡山県づくり県民会議の登録会員制度、自主活動参加者への見舞金制度の創設、子ども110番の家・セーフティーコーンを設置するモデル小学校区の募集について

[平成19年9月7日（金）]

- 平成19年度全国高等学校総合体育大会及び全国中学校体育大会の成績について

[平成19年10月5日（金）]

- 「安全・安心まちづくり旬間」中の主要行事について

[平成19年11月16日（金）]

- わくわくスポーツデーの実施について
・みんなでチャレンジランキングなどイベントの概要について

[平成19年12月21日（金）]

- 平成18年度体力テストの結果について
・全国平均値と県平均値の有意差、種目別平均値の過去30年間の推移について

■人権教育の推進

（2の再掲）

(4) 伝統文化の振興
■伝統文化の振興
[平成19年10月5日(金)]
○世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書について 「資産名称：近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績－」
(その他の主な審議内容)
・岡山県指定重要文化財等の指定について

(5) その他（共通事項等）
[平成19年7月27日(金)]
○民法34条法人の解散について ・財団法人岡山県久米郡久米南町立弓削小学校後援会の解散について
[平成19年7月27日(金)]
○学校基本調査結果（速報）について
[平成19年11月1日(木)]
○職員に対する提言等への対応に関する取扱要綱の制定について
○職員の再就職に関する取扱要綱の制定について
[平成19年11月16日(金)]
○民法34条法人の設立許可について ・財団法人小松奨学財団の設立について
(その他の主な審議内容)
・争訟に関する事案
・夢づくり政策評価の結果
・岡山県教育関係功労者表彰
・教職員の懲戒処分等

3 委員協議会の開催状況

教育行政に関する重要案件については、定例教育委員会とは別に、委員協議会を年間9回開催し、専門的な教育行政施策に関する教育委員の理解の深化に努めました。

(資料4) 委員協議会の開催状況

	開催月日	内 容
1	平成19年4月27日(金)	・岡山県総合教育センターの研修体系について
2	平成19年6月1日(金)	・県立学校の再編整備について ・平成20年度県立高等学校の学科の設置等について
3	平成19年7月6日(金)	・県立学校の再編整備について ・県立中等教育学校について
4	平成19年8月24日(金)	・県立中等教育学校について
5	平成19年9月7日(金)	・いじめ対策行動推進会議からの提言について ・特別支援教育について
6	平成19年12月21日(金)	・放課後子どもプランの進捗状況について ・学校の安全対策について
7	平成20年1月11日(金)	・少年非行問題について ・学校の安全対策について
8	平成20年1月25日(金)	・再編整備校・学科改編実施校等の状況について
9	平成20年3月21日(金)	・教育委員会の活動の点検・評価及び活動状況の公開について ・特別支援教育推進検討委員会の検討状況（報告案）について

4 意見交換会・懇談会等

各地域の実情に応じた教育の振興を図るため、学校現場や教育施設の視察、市町村教育委員会、小中学校長会等との意見交換・懇談会等を行うなど、直接、県内各地・各層の関係者等の御意見を伺い、教育委員会としての意思決定に資する活動を積極的に進めてきました。

(資料5) 意見交換会・懇談会等の開催状況

日 時	活 動 内 容
平成19年4月12日(木)	県総合教育センター開所式 教育問題懇談会
平成19年5月18日(金)	県立倉敷南高等学校視察
平成19年8月24日(金)	県教育委員と小中学校長会との懇談会
平成19年9月29日(土) ～ 9月30日(日)	第62回国民体育大会開会式・選手激励(秋田県)
平成19年10月19日(金)	中国五県教育委員全員協議会勉強会
平成19年11月1日(木)	岡山県教育関係功労者表彰式
平成19年11月2日(金) ～ 11月6日(火)	全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」視察
平成19年11月9日(金)	県立倉敷中央高等学校60周年記念式典
平成19年11月30日(金)	県教育委員会学校視察 ・美咲町立加美小学校視察 ・鏡野町立香北小学校視察 ・津山市立津山西中学校視察
平成20年1月18日(金)	知事との懇談会
平成20年1月25日(金)	公安委員会との意見交換会
平成20年2月8日(金)	市町村教育委員長との懇談会
平成20年3月1日(土) ～ 3月3日(月)	県立学校卒業式出席
平成19年4月13日(金) ～平成20年3月17日(月)	県議会本会議及び常任委員会(文教委員会)への参加(計54回)

5 「岡山県教育行政重点施策」の策定

教育委員会においては、国の動向や県の教育施策の推進状況、学校現場や市町村等の実情などを踏まえながら、教育行政推進の基本的な方針を協議・決定してきました。

また、平成19年度末には、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、小学校から高等学校までを見通した学力向上施策の展開を図ることが必要であること、また、本県のいじめ・不登校などの生徒指導上の問題が全国に比べ深刻化の傾向にあること、さらに、特別支援学校・学級の児童生徒の増加への対応が喫緊の課題であることから、「確かな学力の育成」、「豊かな心の育成」、「特別支援教育の推進」を3本柱とする「平成20年度岡山県教育行政重点施策」について2日間にわたり協議・決定しました。

このように、教育委員会は、岡山県の教育の機会均等、教育水準の維持向上及び県民の意向を反映した責任ある教育行政の実現に鋭意取り組んでいます。

(資料6) 基本的な方針に関する審議状況

[平成19年4月12日(木)]

- 中央教育審議会「教育基本法の改正を受けて緊急に必要とされる教育制度の改正について」(答申)(平成19年3月10日)について

[平成19年7月6日(金)]

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律等の一部改正について
 - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の概要、教育職員免許法及び教育公務員特例法の一部を改正する法律の概要、学校教育法等の一部を改正する法律の概要について

[平成20年2月22日(金)]

- 平成20年度教育行政重点施策について
 - ・教育振興施策の体系、内容について

[平成20年3月21日(金)]

- 平成20年度教育行政重点施策について
 - ・前回協議で指摘した事項について再協議

(その他の主な審議内容)

- ・当初予算
- ・教育委員会事務局、学校等の組織、人事
- ・岡山県議会定例会提出予定案件
- ・岡山県教育委員会規則の改正等

(資料7) 「平成20年度岡山県教育行政重点施策」のポイント

① 確かな学力の育成

- ・教員の意識改革と指導力の向上
- ・子どもの学習意欲の喚起を促す授業改革
- ・学習到達状況の確認と活用 他

② 豊かな心の育成

- ・道徳教育施策の検証と推進の方向性を検討
- ・生徒指導の方向性を示し、いじめ問題等への対応充実 他

③ 特別支援教育の推進

- ・高等特別支援学校の整備 他

II 平成19年度個別の施策・事業の実施状況

大項目	中項目	小項目	頁	
1 生涯学 習の振 興 (P11)	(1)生涯学習推進体 制の整備・充実	ア 生涯学習審議会	11	
		イ 生涯学習推進本部		
		ウ 「おかやま学びの輪」の充実・発展		
		エ 学習成果の活用		
		オ 「第19回全国生涯学習フェスティバル（まなびピア岡山2007）」の開催	12	
	(2)生涯学習環境の 整備・充実	ア 学習機会の充実	13	
イ 学習の場の整備・充実		14		
2 家庭・ 地域社 会の教 育力の 充実 (P18)	(1)家庭の教育力の 充実	ア 学習・交流機会の充実	18	
		イ 相談・支援体制の充実		
	(2)地域社会の教育 力の充実	ア 地域の教育力の活性化	20	
		イ 社会教育活動の充実	21	
	(3)学校・家庭・地 域社会の連携強化	ア 学社融合の推進	22	
		イ 子ども読書活動の推進	23	
	(4)人権教育の推進	ア 市町村における人権教育の推進	24	
		イ 指導者の養成		
		ウ 「人権の世紀21おかやま」推進事業	25	
		エ 「まなびピア岡山2007」参加事業		
3 学校教 育の充 実 (P27)	(1)学力向上の推進	ア 教育内容の充実	29	
		イ きめ細かな指導の推進	30	
		ウ 教職員の指導力の向上	31	
		エ 時代の進展に対応した教育の推進		
	(2)心の教育の推進	ア 道徳教育の充実	33	
		イ 体験活動の充実	34	
		ウ 学校適応の推進	37	
	(3)高等学校教育体 制の整備・充実	ア 入学者選抜制度・方法の改善	40	
		イ 高等学校の魅力づくり	41	
		ウ 県立高等学校の再編整備	42	
		エ 再編整備実施に伴う通学費貸付事業	43	
	(4)学習環境の整備 ・充実	ア 開かれた学校づくりの推進	44	
		イ 教職員の資質向上		
		ウ 教職員の確保と適正配置	47	
		エ 健康と福利厚生	49	
		オ 施設・設備等の整備・充実	50	
	(5)特別支援教育の 推進	ア 教育体制の整備	54	
		イ 就学指導体制の整備充実		
		ウ 教職員の指導力の向上		
		エ 特別支援教育の推進	55	
	オ 障害児に対する正しい理解の推進	56		
	(6)体育・健康教育 の充実	ア 体育・スポーツ活動の充実	57	
		イ 健康教育の充実	61	
	(7)人権教育の推進	ア 人権教育の総合的な推進	64	
		イ 研究推進校園の指定		
		ウ 教職員等の研修		
		エ 調査事業・指導資料等整備	65	
		オ 「人権の世紀21おかやま」推進事業		
	カ 学校・地域社会の連携			
	4 伝統文 化の振 興 (P67)	(1)文化財の保存と 活用	ア 文化財の保存	67
			イ 文化財の活用	70
ウ 文化財保護推進体制の整備			73	
エ 世界遺産暫定一覧表記載資産候補にかかる提案書の提出			74	

1 生涯学習の振興

(1) 生涯学習推進体制の整備・充実

施策の目標

生涯学習推進体制の整備・充実に努めるとともに、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の開催を通じて、生涯学習による人づくり・地域づくりを一層推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年10月5日(金)]

- 第19回全国生涯学習フェスティバルの実施について
 - ・非常に分かりやすいフェスティバルガイドブックとなった。

[平成19年10月19日(金)]

- 第19回全国生涯学習フェスティバルについて
 - ・いよいよ本番が迫ってきた。準備万端整いつつあるが、最後までよろしく願いたい。

[平成19年11月16日(金)]

- 第19回全国生涯学習フェスティバルについて
 - ・大成功で終わることができた。お疲れさまでした。
 - ・予想以上の多くの方が参加され、本当によかった。
 - ・来年度開催県の福島県に岡山県のノウハウ等を引き継ぐなど、しっかりと協力してほしい。

○ 施策の概要

ア 生涯学習審議会

「第19回全国生涯学習フェスティバル」の概要報告及び成果の継承と今後の生涯学習振興、「第2次岡山県子ども読書活動推進計画(案)」について、平成20年2月20日に協議した。

イ 生涯学習推進本部

「第2次岡山県生涯学習推進基本計画」に基づいた取組や「第19回全国生涯学習フェスティバル」の開催について、平成19年9月3日に協議した。

ウ 「おかやま学びの輪」の充実・発展

岡山県生涯学習ネットワーク推進協議会を発展させることを目的に、平成20年3月21日に、「第19回全国生涯学習フェスティバル」の出席・参加団体に呼びかけ、交流会を実施した。

エ 学習成果の活用

各種研修会等において「生涯学習パスポート」の活用について広報、有効活用について研究した。

オ 新「第19回全国生涯学習フェスティバル（まなびピア岡山2007）」の開催

岡山県総合グラウンドほか県内27全市町村を会場に、学習活動や学習成果の発表の場を提供することによって、県民の生涯学習の意欲を高め、学習活動への参加を促進し、学習活動を盛んにするためのイベントとして、文部科学省、市町村、各種生涯学習関連団体等と連携・協働して開催した。

- | | | |
|--------|-----------------------------|----------------|
| ■ 事業内容 | ・生涯学習見本市 | ・生涯学習体験広場 |
| | ・記念事業（シンポジウム等） | ・参加事業（大正琴演奏会他） |
| | ・市町村主催事業（生涯学習おもちゃ箱in岡山ドーム他） | |

大会史上初めて県内全市町村が参加した大会となったことや、出演・出展者をはじめ、行政・企業・学校・各種団体・ボランティア等との協働による取組によって、5日間で約81万人の参加・来場者、534団体の出展・参加団体があった。

この大会の開催を通じ、様々な機関や団体等とのネットワークが構築され、生涯学習推進組織の充実が図られるとともに、市町村においては、地域の良さの再発見や一体感の醸成、地域活動の掘り起こしにつながり、生涯学習による「地域社会づくり」への主体的な参画意識が高まった。

<協働の成果>

市町村、企業、学校、NPO等民間団体等との協働により、生涯学習活動の取組が促進された。



「まなびピア岡山2007」主会場の様子

(2) 生涯学習環境の整備・充実

施策の目標

県民の多様な学習ニーズに適切に対応するため、学習機会の充実や場の整備に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年4月27日(金)]

○岡山県立図書館の入場者数について

- ・利用者数が日本一となったと以前報告があったが、他県との様々な指標の比較ができる資料を再度提出してほしい。

○ 施策の概要

ア 学習機会の充実

(ア) 生涯学習大学事業

県生涯学習センターにおいて、本県の特性を生かした講座を開設するとともに、多様な学習講座を体系化し、県民に系統的・継続的な学習機会を提供する生涯学習大学「のびのびキャンパス岡山」を開学した。

ア) 一般教養コース

ア 市町村広域連携講座・NPO連携講座

分野	講座名	受講者数
地域ふるさと講座	玉野の歴史：古代から近世まで	46人
	古代吉備のクニの形成と特質	40人
	にいみ「ぶらり」体験学習	26人
	美作の中世山城を訪ねて～その盛衰と遺構と～	69人
NPO連携講座	「いきいきとした子ども」に育てるための指導者養成講座（入門編）	15人
計		196人

イ) 専門教養コース

分野	講座名	開設機関名	受講者数
生活と福祉	健康・長寿と食生活	岡山学院大学	6人
国際理解	食生活に魅せられて	くらしき作陽大学	81人
自然・科学	植物と化石を通して地球環境を考える	倉敷芸術科学大学	14人
歴史と文化	目指そう！健康長寿	新見公立短期大学	21人
健康・スポーツ	生きがいづくり	順正短期大学	35人
能力開発	表計算ソフトを使ってみよう	中国学園・中国短期大学	28人
計			185人

り) 大学院コース

分野	講座名	開設機関名	受講者数
学習指導	生涯学習とまちづくり	岡山大学	13人
生活と福祉	セカンドライフの充実に向けて	吉備国際大学	19人
国際理解	国際社会のグローバル化と日本	岡山商科大学	18人
自然・科学	持続可能な開発のための地球学	岡山理科大学	18人
歴史と文化	21世紀のくらしと文化	倉敷市立短期大学	15人
健康・スポーツ	健康ランニング教室	美作大学	21人
能力開発	コンピュータの利用と活用	津山工業高等専門学校	22人
計			126人

* 講座のVOD（ビデオ・オン・デマンド）配信 新たに4講座9講義をインターネットで配信

エ) 連携講座：132機関 継続講座：84講座 短期講座：480講座

わ) 生涯学習大学「受講生の集い」（平成20年3月9日（日）参加者：130人）

(イ) 高等学校等開放講座

イ 学習の場の整備・充実

(ア) 生涯学習センター事業

ア) 指導者の養成と研修

講座名	開催回数：参加者数等
生涯学習推進基礎講座	4回 参加者：市町村生涯学習関係職員 63人
生涯学習推進専門講座	10回 参加者：市町村担当職員等 延べ194人
教育メディア利用講座	延べ2日 参加者：19人
パソコン指導者養成講座	県内4会場延べ11日 参加者：65人
体験活動・ボランティア活動コーディネーター養成セミナー	3回 参加者：延べ57人
地域づくりリーダーセミナー	5回 参加者：11人
映像ボランティア（指導者）養成講座	延べ5日 参加者：7人

イ) 情報提供

「ぱるネット岡山」による学習情報の収集・提供

（情報登録件数：約50,600件 利用件数：69,000件）

ウ) 学習相談（相談員：4人 相談件数：893件）

エ) 県民学習講座

講座名	開催回数：参加者数等
生涯学習ボランティア養成セミナー	3回 参加者：延べ151人
ぱるシアター特別上映会	年2回 参加者：延べ494人
初心者パソコン講座	年4回 参加者：延べ69人
ソフト活用パソコン講座	年8講座 参加者：延べ128人
パソコンセルフスタディールーム	年19回 参加者：延べ225人

(イ) 県立図書館の機能充実

平成16年に開館した県立図書館は、入館者数等が全国の都道府県立図書館でトップになるなど、好調な利用状況であるが、さらに県民に親しまれる図書館となるよう、機能の充実を図る取組を行っている。

平成19年度は、県立高等学校からの搬送希望に応える取組を充実させたほか、県立図書館との相互貸借を充実するなど、利用者の利便性向上を進めた。

また、県内図書館の中核的機能を持たせるため、幅広い資料の収集や全県域を対象にしたサービスを充実させたほか、図書館ボランティアの養成を図るなど、県民の学習活動支援に取り組んだ。

○ 資料搬送システムの充実等利便性向上の取組

- ・ 県内高等学校への搬送事業試行実施 41校：7,245冊（11校増：3,583冊増）
- ・ 県内図書館との相互貸借の増加 県立図書館からの貸出 31,003冊（8,750冊増）
- ・ インターネット予約冊数の増加 60,918冊（12,621冊増）

○ 資料等の充実

- ・ 蔵書冊数の増加 930,874冊（80,461冊増）
- ・ 横断検索システム対象蔵書冊数 7,263,176冊（394,210冊増）
- ・ 郷土情報ネットワーク登録件数 68,236件（27,269件増）
- ・ レファレンスデータベース登録件数 2,990件（1,505件増）

〔注〕（ ）内は、前年度比

<協働の成果>

図書館における読み聞かせなどのボランティアの養成、研修を行い、協働で図書館機能の充実を図ることができた。



岡山県立図書館

全国の都道府県立図書館でのトップ項目

- ・ 購入冊数 52,092冊
 - ・ 来館者数 1,039,979人
 - ・ 個人貸出冊数 1,204,435人
- （平成19年度実績）

ア) 情報発信の活性化

ア 映像コンテスト「デジタル岡山グランプリ」の開催

デジタル岡山大百科のコンテンツ充実に向け作品を募集

（募集期間：平成19年4月25日～9月22日 応募作品：158点）

イ 「メディア工房」（撮影室、編集加工室）の活用

香川県情報通信交流館「e-トピア・かがわ」と共同で、岡山・香川両県の中学生24人がデジタルビデオの撮影を行い、完成作品をWeb上で公開。

（平成19年7月26日・27日 8月1日・2日）

ウ 携帯電話サービスの充実とメールマガジン（メールマガジン配信登録者：1,065人）

イ) ビジネス支援の充実

ア レファレンス及びレフェラルサービス

イ ビジネス支援セミナー ビジネスに役立つ講演会やシンポジウムを開催

開催日（曜）	内 容	参加者
平成19年6月16日（土）	講演「『働くこと』と『産むこと』～江戸・明治の女たち～」	40人
平成19年9月29日（土）	講演「外国人から見た日本の経済と文化」	24人
平成19年9月30日（日）	講演「ビジネスブログ大活用」	55人
平成19年11月17日（土）	講演「動物から学ぶ生命と環境」	55人
平成19年11月25日（日）	講演「地域に残る発展の軌跡」	55人
平成20年1月27日（日）	講演「デザインは公共のために」	111人
平成20年3月8日（土）	講演「伝統工芸の復興と地域の活性化」	46人

ウ 商用データベースの提供

日経テレコン21など商用データベースを無料で提供

（指定データベース7種の利用回数：504回）

ウ) 子ども読書活動の推進

ア 児童資料部門の充実

- ・児童図書研究書の購入、新刊児童図書の全点購入
- ・イベントの開催

開催日（曜）	内 容	参加者
平成19年4月22日（日）	ヨムヨムおはなしまつり	87人
平成19年7月28日（土）	夏休み科学・工作あそび	40人
平成19年8月1日（水）～3日（金）	小学生のためのストーリーテリングおはなし会	120人
平成19年11月2日（金）～6日（火）	ヨムヨム図書館まつり	-
平成19年12月16日（日）	クリスマスおはなし会	201人
毎週土日曜日など	おはなしのへやでのおはなし会 実施回数：164回	3,446人

イ 支援用図書を活用した団体貸出し

貸し出し	冊 数	対 象
長期一括貸出し	46,976冊	8市町33施設
配本所貸出し	13,261冊	3町村9施設
へき地指定校配本貸出し	4,000冊	2町村7校
読書グループ貸出し	396冊	2市町1団体

エ) 障害者へのサービス

ア 対面朗読室におけるサービス

（朗読サービス：162件 録音図書等の利用：3件 録音図書作成：16件）

- イ 心身障害者用書籍、視覚障害者用録音物等の郵送貸出し
 - ・心身障害者用冊子小包 128点 (登録者：202人)
 - ・視覚障害者用録音図書 93点 (登録者：101人)
 - ・聴覚障害者用映像資料 0点 (登録者：26人)
- カ) 夢づくり・県立図書館読書フェスタ
 - ア 文字・活字文化講演会
 - 平成19年12月2日 「こちよい日本語」 金田一秀穂氏 (参加者：210人)
 - イ 図書の展示会
 - 平成19年11月2日～6日 「おかやまの郷土作家百人展」 (入場者：330人)
 - 平成19年12月18日～27日 「金原瑞人のあしあと展」
 - ウ 本・魅力再発見講演会
 - 平成19年12月17日 「ヤングアダルト小説の楽しみ」 金原瑞人氏 (入場者：155人)
 - 平成20年3月23日 「人を創る読書」 高嶋哲夫氏 (入場者：110人)
 - エ 社会人のための図書館がイッンス
 - 平成19年10月20日 「『本』から家族の絆を」 池内ひろ美氏 (入場者：80人)

「生涯学習の振興」施策の成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○生涯学習の講師・ボランティアとして登録している者の数

[出典：生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」登録数]

現況値 (H18.4)	目標値 (H23)	実 績 値						備 考
		H18(H18.4)	H19(H19.4)	H20	H21	H22	H23	
2,950	3,800	2,950	3,055					増

(単位：人)

○公的な生涯学習講座への参加者数

[出典：生涯学習・社会教育関係調査等]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備 考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21	H22	H23	
1,098,873	1,300,000	1,096,987	1,147,676 フェス811,000					増

(単位：人)

○県民が1年間に公立図書館から借りた本の数

[出典：「日本の図書館」日本図書館協会調査]

現況値 (H17.3)	目標値 (H23.3)	実 績 値						備 考
		H18(H18.3)	H19(H19.3)	H20	H21	H22	H23	
987	1,200	1,076	1,105					増

(単位：万冊)

2 家庭・地域社会の教育力の充実

(1) 家庭の教育力の充実

施策の目標

子どもたちの健やかな成長を促すため、子育てに関する学習機会の提供や相談・支援体制の整備などに努める。

【教育委員会での主な審議内容】

[平成20年1月11日(金)]

○平成19年度すこやか子育て川柳について

○ 施策の概要

ア 学習・交流機会の充実

(ア) 岡山県地域家庭教育推進協議会の設置

家庭教育支援の充実を図るため、学識経験者、関係行政担当者、教育関係者、子育てサークルのリーダー等17人からなる岡山県地域家庭教育推進協議会を設置した。

(イ) 家庭教育支援総合推進事業

子育てやしつけなど家庭教育の在り方を見直すため、子どもの発達段階に応じ、妊娠期、乳幼児やこれから小学校に入学する子どもを持つ親、思春期の子どもを持つ親を対象とした講座や、父親の家庭教育への参加の促進を図ることを目的とした事業等を実施した。

講座名	実施市町村	講座数	参加者
妊娠・出産期子育て講座	5市町村	24講座	参加者：358人
乳幼児期子育て講座	17市町村	196講座	参加者：21,191人
学童期子育て講座	17市町村	150講座	参加者：10,793人
思春期子育て講座	15市町村	71講座	参加者：6,602人
その他の機会を活用した子育て講座	13市町村	114講座	参加者：20,300人
次世代の親となる中・高校生の楽しい子育てふれあい交流事業	6市町村	20講座	参加者：2,253人
父親の家庭教育参加促進事業	5市町村	50講座	参加者：7,515人

イ 相談・支援体制の充実

(ア) すこやか育児テレホン（電話・メール相談）の開設

- ・開設日：毎日（年末年始を除く）
- ・開設時間：8:30～23:00（メールは24時間受付）
- ・相談件数：3,758件

(イ) すこやか家庭教育相談員養成講座

家庭教育に関する専門的知識やカウンセリングに関する知識・技術の修得及び資質の向上を目指し、27時間の講座を実施。（修了者：44人）

(ウ) 市町村家庭教育担当者等研修会

まちぐるみの家庭教育支援体制の構築を目指し、市町村家庭教育担当者等が一堂に会し、家庭教育支援に求められていることについて研修を深めるとともに、家庭教育支援の在り方について市町村間の情報交換を行った。（8月23日(木)・2月20日(水)）

(エ) 家庭教育手帳「子育て応援します」リーフレットの配付、すこやか子育て川柳の募集

一人ひとりの父親、母親が家庭を見つめ直し、自信をもって子育てに取り組んでいくきっかけとなるよう、「家庭教育手帳」を母子健康手帳の交付時に配付したり、小学新1年生・新5年生のすべての親に配付した。

また、子育てにおいて「家庭教育」は重要な役割を担っていることや国が実施する家庭教育を支援する事業を紹介した「子育て応援します」リーフレットを市町村教育委員会、社会教育関係機関等に配付した。

さらに、家庭教育の啓発及びおかやま教育の日関連事業として、すこやか子育て川柳を募集した。年度末には、県や市町村、子育て団体等の取組をまとめた家庭教育事例集「すこやか」を作成、保育所、幼稚園、小・中・高等学校、市町村教育委員会、関係団体等に配付した。

(2) 地域社会の教育力の充実

施策の目標

放課後等において、地域の協力による子どもの安全で健やかな活動拠点づくりを推進するなど、地域社会の教育力の充実に努める。

【教育委員会での主な審議内容】

[平成20年2月22日(金)]

○岡山県社会教育委員の会議の審議状況について、当会議が作成している実践事例集について

○ 施策の概要

ア 地域の教育力の活性化

(ア) 新放課後子ども教室推進事業

放課後や週末等に小学校の余裕教室等を利用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を推進した。

- ア) 放課後子どもプラン推進委員会の設置
- イ) 合同研修会の開催
- ウ) 放課後対策事業運営委員会の設置(19市町村)
- エ) コーディネーターの配置
- カ) 放課後子ども教室の実施(144教室)
 - ア 地域の大人と子どもが交流できる場を設置した。
 - イ 異年齢・異世代間の交流活動や子どもたちに様々な体験活動を提供した。
ものづくり(工作・料理)、伝統芸能、スポーツ教室、読み聞かせ、囲碁・将棋教室
レクリエーション大会等

玉野市の取組例

ちっこう子ども楽級は、金曜日の放課後に、築港小学校において、放課後児童クラブと共催で、絵手紙、ドミノ、絵本、お話の読み聞かせ等の活動を行っている。土曜日は、日の出ふれあい会館において、子ども楽級のみで、生け花、料理、囲碁、オセロ、リサイクル工作等の活動を行っている。

子ども楽級で生け花をしました。
季節によっていろいろな花を生けました。花のことが少しわかってきたよ。

<協働の成果>

学校・家庭・地域社会の協働の取組により、地域住民と参加児童との交流の機会をもつことができた。また、実施教室内及び教室同士で情報交換が行われ、子どもを支える大人のネットワークが広がっていている。



(イ) 「地域のヤングリーダー」養成事業 (9市町)

公民館や児童館などの地域の施設で、継続的に子どもたちに遊びやものづくりなどを教える中
・高校生及び大学生のリーダーを養成した。

イ 社会教育活動の充実

(ア) 社会教育委員の会議

全体会議を2回、専門部会を3回開催し、提言「学びの成果を生かした地域社会への主体的な
参画に向けて～新しい公共の視点を取り入れた地域の教育力向上へのアプローチ～」をとりまと
めた。

(イ) 社会教育専門職員の設置促進

各地域における社会教育活動の積極的な推進を図るため、その中心的役割を果たす専門職
員の行政機関や社会教育施設等への設置を促進した。

- ア) 県費派遣社会教育主事 22人 (うちスポーツ担当1人)
- イ) 社会教育指導員 50人

(ウ) 社会教育専門職員の指導力の向上

社会教育を適正かつ効果的に推進するため、各種研修事業の内容充実に努めた。また、社会教
育計画の立案、学習方法の研究など専門職員の資質向上を図った。

- ア) 社会教育主事等研修
 - ア 前期 (5月22日(火)～23日(水) 県生涯学習センター 参加者：100人)
 - イ 後期 (2月19日(火)～20日(水) 県生涯学習センター 参加者：103人)
- イ) 社会教育施設職員研修
 - ア 公民館職員等研修 (6月5日(火)、9月20日(木)、12月6日(木)
岡山市内ほか 参加者：251人)
 - イ 図書館職員研修 (9月～1月(4回) 県立図書館 参加者：239人)
 - ウ 青少年教育施設職員研修 (1月23日(水)～24日(木) 岡山県渋川青年の家 参加者：40人)

(エ) 社会教育関係団体育成等

社会教育活動を強力かつ円滑に進めるため、主要な役割を果たす社会教育団体やグループの育
成に努めるとともに、その活性化を図った。

- ア) 第55回岡山県青年祭 (参加者：939人)
 - ア 体育の部 (7月29日(日)、8月5日(日)、8月19日(日)、8月26日(日)、9月9日(日)
岡山市内ほか 参加者：741人)
 - イ 文化の部 (9月1日(土)～2日(日) 備前市 参加者：198人)
- イ) 第56回全国青年大会 (11月9日(金)～12日(月) 東京都内・国立競技場ほか 派遣：138人)
- ウ) 社会教育関係団体活動助成 (県青年団協議会ほか8団体)

(3) 学校・家庭・地域社会の連携強化

施策の目標

学校・家庭・地域社会の連携により、子どもの生活リズム向上や読書活動の推進を図る。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年12月21日（金）]

○第2次岡山県子ども読書活動推進計画について

- ・読書は、心の広さや優しさ、柔らかさが育つ大切なものである。
- ・ボランティアの方に学校に来ていただくことで、地域の目がさらに学校に向くことにもなる。そういう力がもっと広がってほしい。

○ 施策の概要

ア 学社融合の推進

(ア) 子どもの生活リズム向上のための取組

関係団体・企業等と連携して「早ね早おき朝ごはん」県民運動を展開した。

(イ) 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

ボランティア活動や家族参加の体験活動、地域の様々な課題に取り組みながら解決する活動などを通じて、住民同士が「学びあい、支えあう」地域のきずなづくりを推進した。

(18実行委員会 21事業 参加者：23,743人)

(ウ) 生きる力支援事業「夢さがしの旅」

教育上配慮を必要とする子ども（不登校傾向の児童生徒や屋内に引きこもりの児童生徒）が学校や家庭を離れ、自分を見直し、将来の自分を探して学んでいくための目標を見つけることができるように、学校教育、社会教育関係者等が連携し、各社会教育施設の特性を活かした活動を通して、子どもの自立を支援する「夢さがしの旅」を実施した。

- ・県内の青少年教育施設・実行委員会（6施設 年間23回実施（「親の集い」を含む）
- ・参加家族：延べ171家族 参加小学生：延べ85人 参加中学生：延べ105人

(エ) 家庭向け教育情報紙の発行

家庭・学校・地域社会が一体となった教育を推進するため、保護者に対し、本県の教育に関する情報提供を積極的に行った。

- ・「こころのわ」平成19年9月（特集「心の教育の推進」）26.7万部発行

(オ) おかやま教育の日

平成13年6月、全国に先駆けて条例制定した「おかやま教育の日」の趣旨を、新聞やテレビ等の広報媒体、ポスター・チラシのほか、懸垂幕などによる啓発活動等を通じて、広く県民に周知し、教育についてみんなで考え、県民を挙げて教育に取り組む気運の高揚を図った。

また、11月1日から7日までのおかやま教育週間を中心に、県下全域の関係団体（市町村教育委員会、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学、各種団体等）に広く呼びかけ、さまざまな事業を展開した。

(カ) 子どもほっとライン（電話相談）の実施

- ・開設日：毎日（年末年始を除く）
- ・開設時間：平日17:00～23:00 土・日・祝日8:30～23:00（メールは24時間受付）
- ・相談件数：7,250件

(キ) 青少年団体活動の充実

- 研修事業の開催委託
- 諸活動（各種事業、指導者養成等）への助成

(ク) P T A 活動の充実

- ア) 指導者研修会 (県下7会場 参加者 1,159人)
P T A 役員等の指導者を対象として、P T A の運営や活動の在り方に関する研修の充実に努めた。
- イ) 指導資料作成
「わたしたちのP T A 学校・家庭・地域社会を結ぶP T A -子どもの健やかな成長をめざして-」を作成(3,000部)し、県内市町村教育委員会、各単位P T A等に配付した。
- ウ) 団体育成
 - ア 研修事業の開催委託
 - イ 諸活動(会員研修会等)への助成

イ 子ども読書活動の推進

平成15年3月に策定した「岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどんどん読書プラン～」に基づき、県内の子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことのできる環境の整備に向け、各種事業に取り組んだ。また、岡山県子ども読書活動推進会議からの提言を受けて、「第2次岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどんどん読書プラン～」を策定した。

(ア) 親子どんどん読書事業

地域の読書関係者等で構成した実行委員会を設立し、父親の参加・参画を工夫しながら、親子の読書活動を企画・実践した。(6市町 参加者:約延べ3,800人)

(イ) おかやまどんどん読書実践事例集の活用促進

地域ぐるみで子どもの読書活動推進のためのアイデア・ヒント集「おかやまどんどん読書実践事例集」について、各種研修会においてその活用を呼びかけた。

(ウ) 読書ボランティア活動の推進

- ア) 岡山県立図書館ボランティア研修会 (2コース、延べ6回 参加者:延べ128人)
- イ) 岡山県立図書館ボランティア養成講座 (2コース、延べ2回 参加者:11人)

(エ) 子ども読書活動ネットワーク構築事業

- ア) 備前地区おかやま子どもどんどん読書活動推進研修会(備前地域) (参加者:170人)
- イ) 備中地区子どもの読書活動推進フォーラム2007(備中地域) (参加者:120人)
- ウ) みまさか子ども読書活動推進フォーラム(美作地域) (参加者:130人)

(オ) 各種普及・啓発イベント

- ア) 各市町村におけるブックスタート事業
- イ) 平成19年度一日こども図書館フェスティバル開催(備前市7月28日 来場者:約1,100人)
- ウ) 「ヨムヨムおはなしまつり」開催(県立図書館4月22日「子ども読書の日」参加者:87人)
- エ) 県内各図書館における「子ども読書の日」の取組
- カ) 夢づくり・県立図書館読書フェスタ開催(子ども関係分)
 - ・「本・魅力再発見」講演会 中高校生に人気のヤングアダルト作家による講演
(12月27日、3月23日 参加者:265人)
- キ) 「夏休み科学・工作あそび」の開催(県立図書館7月28日 参加者:40人)
- ク) 「クリスマスおはなし会」の開催(県立図書館12月16日 参加者:201人)

(4) 人権教育の推進

施策の目標

人権問題についての理解と認識を深め、自らの課題として日常生活に生かせる人権感覚を身に付けるための教育・啓発を推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年10月19日（金）]

○保護者向けリーフレット「STOP!いじめ」について

- ・いじめ対策行動推進会議の内容も分かりやすく書かれている。幼稚園の保護者が知っていてもよい内容だ。
- ・小学校に入るとすぐにいじめが起こることも考えられる。幼稚園の保護者にも配り、早い時期から取り組むことも大切だ。
- ・誹謗中傷の発信元が特定できる携帯を作ってくれるようメーカーに要請することはできないのか。例えば、その携帯の外側の色を緑色にしてもらって、緑色の携帯しか学校に持ってきてはいけないことにするなどできないのか。
- ・リーフレットは、もっと見やすく、ポイントをつかみやすいものにするべきだ。

[平成20年2月22日（金）]

○人権教育推進状況報告書のまとめについて

- ・人権教育はかつての同和教育から広がってきたという流れは分かる。その中で、人権という言葉についてであるが、社会的弱者に対する配慮が、イコール人権ということになりすぎては困る。基本的には、自由や平等とか言論の自由ということが人権である。そういうことを押さえた上で、社会的弱者への配慮を考えなければならない。

○ 施策の概要

ア 市町村における人権教育の推進

- (ア) 市町村等指導事業（人権教育推進員派遣回数：42回）
- (イ) 人権教育総合推進事業（2地域）

イ 指導者の養成

- (ア) 市町村人権教育担当者等研修会（2会場 116人）
- (イ) 社会教育関係団体指導者人権教育研修会（6会場 948人）
- (ウ) 人権教育・啓発指導者講座
 - ア) 人権教育・啓発指導者講座Ⅰ（6回 39人受講）
 - イ) 人権教育・啓発指導者講座Ⅱ（2回 97人受講）

○人権教育・啓発指導者養成講座Ⅰ

<各回の代表的な内容>

第1回:「身近なところから差別意識をなくそう！」(講義・演習)

講師:企画表現研究所所長 雪竹欽哉

第2回:「洪染一揆の足跡を訪ねて」(現地研修)

第3回:「国立療養所 邑久光明園を訪ねて」(現地研修・交流)

第4回:「ファシリテーターになるために！」(ワークショップ)

講師:ERIC国際理解教育センター 角田尚子

第5回:「アイヌの人々と人権」(講義)

講師:アイヌ文化振興・研究推進機構 居壁 太

第6回:「研修プログラムをつくってみよう！」(演習)



洪染一揆現地研修



邑久光明園現地研修



「アイヌの人々と人権」の講義

参加者の意見:「現地研修を行うことで、当時の様子がよく理解できた。」「演習では多くの人と意見交換ができ良かった」「自分の問題として差別をとらえることができた」「人権問題についてもっと勉強を重ね、それを広めていきたい」

<協働の成果>

民間団体の職員等を研修講師として招き、リーダーの養成に努めるなど、協働の取組は進んだ。

ウ 「人権の世紀21おかやま」推進事業

(ア) 人権教育市町村サポート事業

- ア) 市町村人権教育推進委員会等推進事業 (実施市町村数: 22市町村 59事業)
- イ) 市町村人権教育指導者養成講座開設事業 (実施市町村数: 14市町 16事業)
- ウ) 人権教育自立促進事業 (実施市町村数: 13市町 51地域)
- エ) 人権教育交流活動事業 (実施市町村数: 15市町 38地域)
- オ) 社会教育関係団体人権教育研修事業 (実施市町村数: 24市町村 37団体)
- カ) 人権学習機会提供事業 (実施市町村数: 11市町 42事業)

エ 「まなびピア岡山」2007参加事業

(ア) **新**ふれあい人権劇・家族ふれあい人権劇

「家庭・地域社会の教育力の充実」施策の成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○毎日朝食を食べている子どもの割合

[出典：児童生徒の朝食摂取状況の現状に関する調査]

現況値 (H18.7)	目標値 (H23)	実績値						備考
		H18(H18.7)	H19(H20.1)	H20	H21	H22	H23	
81	86	81	81					横ばい

(単位：%)

○様々な体験活動に参加した青少年の数

[出典：社会教育施設での青少年対象講座参加者数、岡山チャレンジワーク14の参加生徒数]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実績値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21	H22	H23	
102,205	112,000	106,724	110,736					増

(単位：人)

○家庭教育相談員の養成数

[出典：すこやか家庭教育相談員養成講座修了者数]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実績値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21	H22	H23	
474	780	614	658					増

(単位：人)

○人権啓発・教育リーダー数（累計）

[出典：人権教育・啓発指導者講座修了者数]

現況値 (H17.3)	目標値 (H24.3)	実績値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21	H22	H23	
115	300	185	219					増

(単位：人)

3 学校教育の充実

(1) 学力向上の推進

施策の目標

きめ細やかな指導や特色ある教育を展開し、子どもたちの確かな学力向上を図るとともに、時代の進展に対応した教育を推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年4月27日(金)]

○全国学力・学習状況調査の実施について

- ・この調査結果は、本県独自の教育を行った結果ではない点を、我々は留意しておく必要がある。

[平成19年7月6日(金)]

○県立高等学校の訪問結果について

- ・学校訪問で学校の本音を聞いてほしいとお願いした。教育委員会は、現場の先生方を守るといふ姿勢を是非持っていただきたい。文部科学省がこう言っているのだからこうしなさいと指導するのではなくて、現場はこうなのだからと文科省に意見を言う姿勢を持ってほしい。教育課程等の弾力化を求める声は、文科省に届けてほしい。
- ・今回の学校訪問は未履修の問題が発生したことを受けて、学校の現状と課題を把握し、学校の教育活動の改善を支援する目的で特別に実施されたが、その部分についての報告が少ない。教育委員会は現場に対して、何を今回の未履修の問題に関してやっていけばよいのか、もっと明確にするべきだ。
- ・今回の訪問結果を次にどう生かしていくかを考えないといけない。
- ・校内体制の整備についてもっと聞かせてほしい。
- ・学校からの相談に対して、検討した結果どう対応したかを具体的に聞かせてほしい。
- ・教育委員会は文部科学省の出先ではなく、現場の教員の味方だということを分かってもらわなければならない。そのことをよく現場に伝えてほしい。

[平成19年10月19日(金)]

○第10回全国環境学習フェア(岡山大会)の実施について

- ・産業界にも手を広げて取り組んでほしい。

[平成19年11月16日(金)]

○平成19年度全国学力・学習状況調査の分析結果について

- ・全体の結果に縛られないで、各学校がこの結果を生かして、これから個々の児童生徒をどう指導していくかが重要である。
- ・教育事務所ごとに特異差があるが、何による特異差なのかを考えなければいけない。
- ・どの問題が正解していて、どの問題に間違いが多かったかを分析しなければいけない。
- ・秋田県ではネット学習や学習ノートに取り組んでいるが、何より教師力だとテレビで報道されていた。秋田県のいいところは取り入れてやればよい。

[平成20年1月11日(金)]

○「学力向上健やかフォーラム2008inおかやま」の開催について

- ・テストの点数を上げるためだけの取組にならないように注意してほしい。点数の高い人材で

はなく、クリエイティブな人材を育ててほしい。

- ・点数に左右されるのではなく、ものを考える力を高めるために、生きていく力を身に付けるために、今もいろいろなことに取り組んでいる。

[平成20年1月25日（金）]

○全国学力・学習状況調査に係る保護者向けリーフレット「保護者のみなさまへー子どもたちの学習や家庭生活をともに考えてみませんかー」について

- ・この提言を押しつけようとするのではなく、あくまで例としての案であることをもっと分かるようにするべきだ。2時間以上勉強するのがいい子かと言えば、そうでもないだろう。勉強を時間で計るのはよくない。
- ・Q&Aの箇所のイラストが、母親ばかりなのは問題である。
- ・岡山の子どもは平均正答率は少し低かったが、こういうところは他の県より良かったということはポジティブに出してほしい。社会を生きていく上では、テストの1点、2点よりも大事なことだ。
- ・1日2時間と書かれているのを見たら、勉強を嫌いになる。勉強はしないといけないものではなくて、勉強はもっと面白いものなんだよと伝えたい。
- ・「学習の習慣づくりのために」の箇所は、「どのくらいの時間を勉強していますか」とあるが、ここも時間で計るのではなく、「必要な時間を計画的にできていますか」のような表現に変えた方がよいのではないか。
- ・学力を伸ばすためには、一人一人の個性をきっちりつかまえて、こうすれば伸びるんだということを保護者に伝えてあげることが大切だ。もっと子どものことを分かってあげてくださいと、そういうところから始めるべきではないだろうか。
- ・どのくらいの時間を勉強しているかではなく、学習計画を立てるといった、学力に関わるコミュニケーションを子どもととる、まじめに子どもの話を聞くことが、保護者にとって大事だ。
- ・知・徳・体のうち、知の部分しか出ていないが、本来、知・徳・体のバランスのとれた子どもに育てることが大事だ。そういったことを示してほしい。

[平成20年3月21日（金）]

○「全国学力・学習状況調査」最終報告書について

- ・こういう報告をするときは、第一に設問の分析を専門家に依頼し、①設問のクオリティがどうだったか、②正答率で子どもたちのどういう資質、姿勢、能力が測れるか、③この問題では測れない資質、姿勢、能力にはどういったものがあるのか、それをまずはっきりとさせる必要がある。
- ・この分析はあくまでも平均値を出したものであることを注意してほしい。
- ・改善の視点についても、ICT機器を活用してフラッシュ教材を学習に使って、本当に考える力を養うことができるのか検証してほしい。やりっぱなしではなく、検証して、効果があった方法を教えていただければ、次年度にはさらに事例が豊富になる。
- ・やはり勉強した方が成績はよい。落ち着いた学校は正答率が高くなるのであれば、ではどうやったら落ち着いた学校ができるか、もう少し踏み込んで考えてみてはどうか。

○ 施策の概要

ア 教育内容の充実

(ア) 教育課程の適切な編成と運営

- ア) 教育課程の管理（県立学校）
- イ) 教育課程研究協議会
- ウ) 指導主事研修会

(イ) 教材の精選と学習形態、指導方法の工夫並びに基礎・基本の徹底

学校訪問、研究指定校訪問、教育研究団体研究会等における指導

(ウ) 教育研究指定校による研究の推進とその活用

各教科・領域等について、学校現場における実践的研究を委嘱し、教職員の研究活動の促進を図るとともに、その成果の活用に努めた。

- ア) 研究内容
学力向上、道德教育、体験活動、キャリア教育、環境教育、生徒指導、特別支援教育等
- イ) 研究指定校（県、文部科学省指定）
公立小学校42校、公立中学校27校、公立高等学校18校、地域指定17地域

(エ) 高校教育改革の推進

生徒の多様化に対応して、一人ひとりの個性の伸長をより適切に図るために、「学校間連携による単位認定」、「大学・高等専門学校・教育施設等との連携による単位認定」、「知識及び技能に関する審査の合格に係る単位認定」及び「ボランティア活動・就業体験等の成果に係る単位認定」の実施を促進した。

- ア) 学校間連携による単位認定（県立高等学校 3校）
- イ) 大学・高等専門学校・教育施設等との連携による単位認定（県立高等学校 8校）
- ウ) 知識及び技能に関する審査の合格に係る単位認定（県立高等学校 33校）
- エ) ボランティア活動・就業体験等の成果に係る単位認定（県立高等学校 12校）

(オ) 学びのコラボレート推進事業

外部の教育研究機関や企業等との幅広い連携に基づいて企画・実施する教育活動や教材開発を行う高等学校を支援した。（県立高等学校 15校）

(カ) 高校エキスパート活用事業

県立学校において、専門的な技能や能力を有する企業や地域の人材155人を非常勤講師として60校へ配置し、学校の特色に応じた専門性の高い指導を生徒に行い、専門的・発展的な学習を進めた。

(キ) 目指せスペシャリスト

指定校において、地域の産業界・研究機関等と連携し、先端的な技術等を取り入れた教育や伝統的な産業に関する学習活動を重点的に行い、地域社会を担う将来の専門的職業人の育成を目指した。（指定校：県立倉敷工業高等学校、玉野市立玉野商業高等学校）

(ク) 学校経営予算

学校の教育活動について、必要・実態に応じて学校自らが立てた計画に基づいて予算配分を行うシステムを確立し、学校長の裁量の拡大を図った。（県立学校）

（「総合的な学習の時間」学習支援、学校図書館図書充実、社会人講師活用等）

(ケ) 高等学校職業教育技術顕彰

県内の高等学校及び特別支援学校高等部に在籍する生徒のうち、職業資格取得者を顕彰することにより、生徒の技術・技能の習熟、目的意識や学習意欲の向上を図った。（顕彰者数：656人）

(コ) へき地、小規模校の教育の充実

へき地教育等各種研究会への教員派遣、複式学級新担任者研修講座の開催などにより、へき地、小規模校の教育の充実に努めた。

(サ) 幼稚園教育の充実

国によって策定された「幼児教育振興アクションプログラム」に基づき、各市町村教育委員会に対して幼稚園教育の充実が図られるよう指導を行った。

- ア) 3年保育の実施促進
- イ) 幼稚園における子育て支援の促進

イ きめ細かな指導の推進

(ア) 中学校及び小学校第6学年の学級編制の弾力化

いじめや不登校が急増する中学校について、全学年において3学級以上の中学校60校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。(新)中学校第3学年に拡大)

また、小・中学校のスムーズな接続を図る観点から、いじめ、不登校などの課題が増加し始める小学校第6学年についても、3学級以上の小学校10校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。

(イ) 小1グッドスタート支援事業

地域住民等349人を、学級担任の補助を行う教育支援員として小学校第1学年で児童数の多い学校139校に配置し、児童の基本的な生活習慣の確立や基礎学力の向上を図るとともに、義務教育の円滑なスタートを図った。

(ウ) 全国学力・学習状況調査

児童生徒の学力・学習状況を把握・分析するため、全国的な調査を実施し、調査結果を活用した授業改善等に取り組んだ。

ア) 調査の実施状況

- ア 実施日：平成19年4月24日
- イ 実施対象：小学校6年生、中学校3年生
- ウ 実施教科：国語、算数・数学

イ) 調査に関わる取組

- ア 調査結果の分析
- イ 調査分析結果と結果を踏まえた授業改善の取組を具体的に示した報告書の作成
- ウ 市町村や学校を対象とした、県下全体の状況、授業改善の視点についての説明会の開催(県下4地区)
- エ 各学校での授業改善プランの作成
- オ モデル校での授業改善に関する研究(公立小学校2校、公立中学校1校)
- カ 自学自習教材の配付
- キ 家庭向け啓発リーフレットの作成・配付
- ク 学力向上フォーラムの開催(2月10日)

(エ) 進路指導の充実

- ア) 中学校進路指導担当者連絡協議会、高等学校進路指導担当者連絡協議会及び県就職問題連絡協議会を開催し、進路指導の充実並びに学校、関係諸機関との密接な連携による進路保障の推進を図った。また、新規高卒予定者に対する就職支援の一環として、就職面接会を2回(11月、2月)開催し、求人・求職の結合の促進を図った。
- イ) 高校生のためのジョブフェア(合同企業説明会)
就職を希望する生徒にできるだけ早くから様々な職業について理解させたり、働くことの意

義を考えさせたりするため、学年を問わず就職を希望する生徒を対象に、岡山労働局等の協力のもとに、採用意欲のある企業の参加を募った合同説明会を、岡山、倉敷、津山の3会場で実施した。（参加企業数：128社 参加生徒数：延べ1,004人）

ウ) 職場適応指導

高等学校卒業者の早期離転職の増加が指摘されていることから、学校における進路指導の一環として、卒業生の就職先である事業所等を訪問し、卒業生を適切に支援するとともに、在校生への進路指導に役立つ資料や新しい情報の収集、応募先の新規開拓など、進路指導の充実を図った。

ウ 教職員の指導力の向上

(ア) **新言葉の力**向上プロジェクト

「確かな学力」を形成するための基盤である「言葉の力」を育成するために、その指導の在り方について研究を行った。

ア) 「言葉の力向上講演会・シンポジウム」の開催（平成19年5月8日）

イ) 言葉の力を育成するための指導の在り方について協議・提案を行う「言葉の力向上委員会」の設置

ウ) 言葉の力を向上させる事例を掲載した「実践事例集」の作成

(イ) 「授業で勝負！」支援事業

学力向上に向けて各学校が進める特色ある授業改善の取組を一層促進するため、指定校において、大学等と連携して授業力向上のための実践研究を行うとともに、積極的な授業公開を行った。（指定校：公立小学校19校、公立中学校17校）

(ウ) 学力向上拠点形成事業

指定校において、個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善、「確かな学力」向上のための実践研究を推進した。（指定校：公立小学校10校、公立中学校8校、県立高等学校2校）

(エ) **新アクティブ**ハイスクール

生徒一人ひとりの学力向上と進路希望の実現のため、基礎・基本の徹底向上と知的総合力の徹底向上に取り組む県立高等学校を支援し、明確な目標と確かなプロセス、組織的な展開と的確な評価による改善を通じた学力向上の方法を研究した。（指定校：県立高等学校4校）

エ 時代の進展に対応した教育の推進

(ア) 情報化に対応した教育の推進

ア) ICT人材育成プロジェクト

指定校において、高校生のICTに関する高度な知識の習得と実務能力の向上を図った。（指定校：県立岡山工業高等学校）

イ) 県立学校IT基盤整備事業

県立学校において、高速インターネットへの接続、情報教室のコンピュータ整備等により情報通信機器の幅広い活用を可能にし、児童生徒への教育を効果的に行う環境づくりを推進した。

(イ) 国際理解教育の推進

国際化社会にあって、教職員や児童生徒が諸外国の文化について理解を深めるとともに、国際的視野に立ってわが国の文化や伝統を見ることができるよう国際理解教育を推進した。

ア) 外国語指導助手（ALT）の配置

外国語教育・国際理解教育の一層の充実を図るため、外国語指導助手28人を県立学校へ派遣した。（英語：27人、仏語：1人）

- イ) 岡山県・南オーストラリア州教員相互派遣
岡山県の英語教員を2年間南オーストラリア州へ派遣し、日本語指導を行うとともに、南オーストラリア州の英語教員を1年間受け入れ、県立高等学校等で英語指導を行った。
- ロ) 中国江西省交流事業
中国江西省に教育文化訪問団（10人）を派遣し、江西省教育庁との協議や学校訪問を通じて、両県省の教育・文化交流の推進と相互理解を行った。
- エ) **新**小学校における英語教育推進事業
小学校における英語活動等国際理解活動について、指導方法等の確立を図るため、地域の学校のモデルとなる拠点校を指定し、外国語指導助手や地域人材等の効果的な活用を含めた実践的な取組を推進することにより、当該地域全体の水準の向上を図った。（拠点校：公立小学校8校）
- カ) スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール
指定校において、大学等と連携しながら、英語教育を重視したカリキュラムの開発や指導方法及び評価についての研究を行った。（指定校：県立倉敷南高等学校）

（ウ）科学技術教育の推進

- ア) 「科学の実験教室」開催促進事業
児童生徒を対象にNPO等が行う「科学の実験教室（観察・実験講座、科学工作、サイエンスショーなど）」の活動について3団体を支援し、科学技術や理科が好きになる子どもの育成を図った。
- イ) **新**理科支援員等配置事業
外部人材を理科支援員として配置することにより、授業における観察・実験活動の充実を図るとともに、教員の資質向上を図り、小学校における理科授業の充実を図った。（配置校：公立小学校40校）
- ロ) “理数に挑戦！”中学生大集合
中学生を対象として、理科や数学の様々な問題に挑戦する機会を提供するとともに、サイエンスショーなどを実施することにより、理科や数学に対する興味・関心及び能力を一層高め、県内理数教育の発展・充実を目指した。応募者数は270人で、そのうち10人を優秀者として表彰した。
- エ) スーパーサイエンスハイスクール
指定校において、理科・数学に重点を置いた取組を大学等と連携しながら実践し、将来の科学技術系人材の育成を図った。（指定校：県立倉敷天城高等学校、**新**県立玉島高等学校）

（エ）環境教育の推進

- ア) スーパーエンバイロメントハイスクール
環境教育を重点的に行う県立高等学校2校をスーパーエンバイロメントハイスクールに指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、問題を正しく理解し、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図った。
- イ 高松農業高等学校：家畜排泄物の処理プラントによる循環型農業の推進等の研究
- ロ 東岡山工業高等学校：シュレッターダストから酵素を利用したエタノールの製造と残渣成分による苗ポットの製作の研究

(2) 心の教育の推進

施策の目標

道徳教育の充実や体験活動を重視した教育、いじめ・不登校等の未然防止と早期解決に向けた取組を推進し、豊かな心を育成する。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年5月18日(金)]

○いじめ対策行動推進会議の設置について

- ・いじめ対策行動推進会議を設置すればすぐにいじめ問題が根絶するとは思えない。会議での提言を実践事例集としてまとめ、それを学校での対策に生かし、いじめの根絶につなげていくことが大切だ。
- ・提言のしっばなしではなく、ケース会議などで検証しそれをもとに有効な対策を考えるという、いじめ根絶に向けたプロセスを明らかにするべきだ。
- ・IT社会の問題など、新しいタイプの問題にも対応する実践事例集を作成し、教員や保護者にさらに認識を深めてもらう必要がある。
- ・学校だけの取組ではなく、地域、家庭の協力が必要である。地道な長い対応が必要で、関係者の覚悟が求められる。
- ・なるべく早く提言を出し、学校での活用を図るようにしてほしい。

[平成19年8月24日(金)]

○児童生徒の問題行動等に関する調査結果(速報)について

- ・いじめの定義が変わったことを書くべきだ。

[平成19年11月16日(金)]

○児童生徒の問題行動等に関する調査結果について

- ・高等学校中途退学者の状況、不登校の状況など、単に数字が増えているから問題だということではなく、今後どう対応するかが問題だ。

[平成20年3月21日(金)]

○岡山県学校文化関係表彰について

- ・こういった文化関係の表彰をすることは非常にいいことだ。この賞のことを広く広報してほしい。

○ 施策の概要

ア 道徳教育の充実

幼・小・中学校の校長、教頭、教諭を対象に、道徳教育の諸問題の解決を図り、道徳教育の一層の充実に向けて研究協議を行った。さらに、市町村教育委員会と連携し、各学校における道徳の時間の確保と充実に努めた。

(ア) 道徳教育研究協議会(6月22日、11月29日)

県下の公立幼稚園、小学校、中学校において、各校園や地域の実態に応じ、学習指導要領の改訂の趣旨を生かした道徳教育の充実や、道徳教育の諸問題の解消を図るとともに、教員の指導力の向上に資するため、県下の公立幼稚園、小学校、中学校の校長・教頭及び教諭を対象に講演や

部会での研究協議を行った。

(イ) **新**共に生きる子ども育成プロジェクト

子どもたちの他人への思いやりやねばり強さ、責任感などの道徳性や社会性を育んだ。

ア) 指導資料の作成

幼稚園における道徳性の芽生えを育てる取組や小中学校における道徳や特別活動の取組の参考となる資料を作成した。

イ) モデル校園による実践研究

「道徳性（の芽生え）」や「社会性」などを育てるため、道徳や特別活動を中心としたカリキュラムの開発や、家庭・地域社会との連携、外部人材の活用、異校種間の連携などを視野に入れた実践研究を行った。（公立幼稚園2園、公立小学校3校、公立中学校3校）

(ウ) 児童生徒の心に響く道徳教育推進事業

指定校において、学校や地域の実態を踏まえ、創意工夫を生かした児童生徒の心に響く道徳教育を推進するための実践研究や、命を大切にすることを育む教育を推進する観点から、児童生徒が生命の尊さなどを実感できる道徳教育を充実するための実践研究を行い、その成果の普及を図った。（指定校：公立小学校2校）

(エ) 伝え合う力を養う調査研究事業

指定校において、学校教育の様々な機会を通じて、お互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上における問題を言葉で解決する力を育てるとともに、児童生徒が相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラム等の在り方について、計画的、総合的に高めていく実践調査研究を行った。（指定校：公立小学校1校）

(オ) **新**高・中学校「人間としての在り方生き方」教育の実践研究

指定校において、青年期の特質を踏まえ、生徒が人間や社会に目を向け、人間としての在り方や生き方を考える教育を推進するため、人間としての在り方生き方に関する教育の総合的な展開や指導法、カリキュラムの接続などについての実践研究を行い、研究会を開催し成果の活用・普及を図った。（指定校：公立中学校2校、県立高等学校2校）

イ 体験活動の充実

(ア) 岡山チャレンジ・ワーク14

中学生が望ましい職業観や勤労観を育て、将来の自己の生き方を考え、様々な課題を乗り越えながら学習や生活にチャレンジすることができるよう、ほぼ全ての中学校において数日間の職場体験活動を行った。



岡山チャレンジワーク14
(消防署での訓練体験)

(イ) 豊かな体験活動推進事業

ア) 体験活動推進地域

推進地域内の異校種間で連携を図りながら、体験学習活動のモデルとして実践研究を行った。
(推進地域2地域：公立小学校8校・公立中学校2校・県立高等学校2校)

イ) 仲間と学ぶ宿泊体験教室

指定校において、地域や学校、児童生徒の実態を踏まえ、当該学校の活動を受け入れる宿泊施設等との連携のもと、宿泊を伴う、一定期間まとまった共同生活等の体験活動を行った。
(指定校：公立小学校2校)

(ウ) “飛び出せ！専門高校生” 地域実践サポート事業

県立専門高等学校生徒が、実習や課題研究等の学習で学んだ成果を、アンテナショップ開設や近隣農家の休耕田管理支援など社会の実践の場で生かすことで、専門的な学習の深化につなげるとともに、専門高等学校についての地域住民の理解を深めるなど地域とのパートナーシップ確立に成果を上げた。(県立専門高等学校10校)

(エ) 高校生“熱き心” 徹底応援プロジェクト

県立高等学校の生徒会が、各学校や地域の特色を生かして、伝統芸能の継承や子育て支援プログラムなどの企画を実施することで、地域に貢献することの喜びや地域の魅力の再発見、また、社会の一員としての自覚や他人を思いやる心を育んだ。(県立高等学校6校)

(オ) キャリア教育

ア) キャリア教育推進事業

生徒が自分の将来に明確な目標を持ち社会人・職業人として自立していけるように、小・中・高等学校との連携も含めた、総合的なキャリア教育を推進した。

イ) キャリア教育推進会議(5月11日)

県立高等学校、特別支援学校のキャリア教育担当者等が、現在推進しているキャリア教育の具体的な取組等について研究協議、情報交換を行った。

ロ) キャリア教育推進校(拠点校: 県立学校18校、協力校: 県立学校30校)

企業OB等をキャリア教育支援員として拠点校に配置し、生徒一人ひとりの特性に応じた進路指導の改善等を図った。

ハ) キャリア教育推進地域連絡協議会(拠点校において各2回)

各拠点校を中心に、企業やハローワーク、近隣の小・中・高等学校が参加して児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の在り方について情報交換を行った。

ニ) キャリア教育実践プロジェクト

指定地域において、地域の教育力を最大限に活用し、中学校を中心とした職場体験等の5日間以上の実施など、キャリア教育の推進を図るための調査研究を実施した。

(指定地域1地域: 公立中学校7校)

ヒ) 新高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究

高等学校、特に普通科高校におけるキャリア教育を充実するため、指定校において、指導内容・指導方法の充実・改善や外部人材の配置及び活用の在り方、高等学校卒業生及び中退者への各支援方法などについて調査研究を行った。(指定校: 県立高等学校2校)

<協働の成果>

企業やハローワークとの連携、また企業OB等を活用したキャリア教育支援員の配置などにより、効果的なキャリア教育プログラムの開発や職場体験活動の実践が図られた。

(参考数値)

新規学卒者就職内定率 (高校)	H18	H19	増減
	98.5%	98.6%	0.1%

(カ) ボランティア教育の推進

子どもたち一人ひとりがボランティア活動に自然に溶け込めるよう、学校行事、総合的な学習の時間等を通して、ボランティアの意義や活動の進め方についての学習を推進した。

(キ) 新高校生「県産材活用」UD整備事業

高校生自らが企画・提案した「木の快適空間」をユニバーサルデザインの観点に立ち、県産材を活用して整備した。

整備校・企画グループ名	整備概要	決算額(円)
倉敷商業高校 KURASHO TEAM	化学教室を生徒の集いの場や音楽のスペース、展示発表のスペースとして利用できる多目的室へ改修 面積：120㎡	7,479,150
岡山聾学校 Woody Library -森の図書館-	特別教室棟2階の図書室を明るい配色の木材を活かした温かみのある空間へ改修 面積：97㎡	7,479,150

(ク) **新**高校生「エコ広場」UD整備事業

高校生自らが企画・提案した「憩いの広場」をユニバーサルデザインの観点に立ち、エコ製品を活用して整備した。

整備校・企画グループ名	整備概要	決算額(円)
備前緑陽高校 緑陽の賢治になり 隊エコ広場&UD 推進チーム	体育館前広場を交流会や生徒の車椅子体験等に利用できる広場へ整備 面積：500㎡	9,999,150
久世高校 やまなみのつどい	中庭をエコ製品を活用し、3学科の特徴を活かした広場へ整備 面積：526㎡	9,997,000

(ケ) 学校文化活動の促進

ア) 鑑賞・体験機会の提供と文化の担い手育成

ア 創作発表会の実施状況

事業名	開催日	会場	入場者数
第31回岡山県高等学校総合文化祭 (総合開会式、16部門の開催)	5月5日 ～2月10日	倉敷チボリ公園ほか	10,061人

イ 青少年劇場巡回公演の開催状況

区分	演目	期日	会場	入場者数
青少年劇場 巡回公演	楽劇団いちよう座 「リーダー・シアター お話いっぱい」	5月21日 ～6月1日	県内10小学校	3,837人

ウ 本物の舞台芸術体験事業(学校公演)の開催状況

区分	演目	期日	会場	入場者数
オーケストラ	京都フィルハーモニー室内合奏団 「はじめてのクラシックコンサート」ほか	10月16日 ～19日	県内2小学校 1中学校 1特別支援学校	966人
合唱	東京混声合唱団 「楽しい合唱」ほか	11月6日 ～9日	県内3小学校 1中学校	1,385人
ミュージカル	山彦の会 「ミュージカル山彦ものがたり」	11月8日	県内1中学校	265人
児童劇	劇団プーク 「くまのウーフ」	10月1日 ～3日 12月20日	県内4小学校	595人
演劇	劇団えるむ 「ベッカンコおに」	10月1日 10月3日 ～5日	県内3小学校 2中学校	1,133人
邦楽・邦舞	伶楽舎 「ポン太と神鳴りさま」ほか	10月9日 ～10日 11月29日	県内3小学校	904人

エ 子どもの映画鑑賞普及事業の開催状況

区分	演 目	期 日	会 場	入場者数
映 画	あした元気になーれ ～半分のさつまいも～	8月11日	ロマン高原かよ う総合会館	115人
	フラガール	3月20日	笠岡市民会館	88人

オ 地元オーケストラ等による各種公演

事 業 名		期 日	会 場	入場者数
スクールコンサート 「岡山フィルハーモニック管弦楽団」		5月15日 ～5月31日 10月1日 ～10月26日	県下27小・中・高 等学校ほか	8,973 人
中・高校生のための公開レッスン 「岡山フィルハーモニック 管弦楽団」	〔管 楽〕	12月23日	新見第一中学校	17人
		12月24日	県立林野高等学校	52人
	〔弦 楽〕	2月10日	県立岡山城東高等学校	47人
		2月16日	清心女子高等学校・ 清心女子中学校	13人
児童生徒に贈るハッピー・ハートフルコンサート (鑑賞と合同演奏等)		11月20日	津山市立北陵中学校	710人
		11月21日	備前市立伊部小学校	455人
		11月22日	真庭市立勝山小学校	498人

イ) 発表機会の提供と文化交流の促進

全国高等学校総合文化祭派遣事業

第31回全国高等学校総合文化祭が、平成19年7月29日から8月2日までの5日間にわたり、島根県において開催され、岡山県からは16部門420人を派遣した。

ウ 学校適応の推進

(ア) 校内指導体制整備

ア) 生徒指導連絡協議会

生徒指導上の諸問題について、各学校の生徒指導担当者が情報交換、研究協議等を行うことにより、学校における生徒指導の充実を図った。

ア 小学校：5月14日（県総合教育センター）

イ 中学校：5月18日（県総合教育センター）

ウ 高等学校・特別支援学校高等部：5月22日、1月17日（県総合教育センター）

イ) 学校コンサルテーション

いじめ、不登校、学級が機能しない状態、問題行動等、生徒指導上の諸問題や障害のある児童生徒一人ひとりに応じた支援等について、県総合教育センター指導主事が公立小・中・高・特別支援学校の校内支援チームに対するコンサルテーションを行うことにより、より有効な校内指導体制の整備を図った。

(イ) 教育相談体制の充実

県総合教育センター、県青少年総合相談センター、倉敷・高梁・津山教育相談室において、教育相談（面接・電話）を次のとおり実施し、個別指導の徹底を図った。

また、県青少年総合相談センターにおいては、進路相談も実施した。

区 分		相 談 回 数	相 談 内 容	会 場	相 談 日	
県 総 合 教 育 セ ン タ ー	教育相談	面接相談	延べ 1,405	不登校・いじめ、集 団適応等	県総合教育セン ター	月～土※
		電話相談	延べ 641			月～金
	医師による教育相談		延べ 21			毎月第4 水曜日
	特別支援 教育相談	面接相談	延べ 909			月～土※
		電話相談	延べ 600			月～金
県青少年総合 相談センター 及び 教育相談室	面接相談	延べ 942	不登校・いじめ等	県青少年総合相 談センター 3教育相談室	週3～毎日	
	電話相談	延べ 1,536			週3～毎日	
	面接相談	延べ 49	進路相談	県青少年総合相 談センター	毎日	
	電話相談	延べ 321				

※土曜日は第2・4土曜日のみ実施



総合教育センター相談室（箱庭の部屋）

(ウ) 学校適応推進に係る事業

ア) 新いじめ対策行動推進会議の設置

多様な態様や複雑な要因等からなる対応が困難ないじめ問題の未然防止・早期対応・再発防止に向け、学校・家庭などにおける取組について協議・提言を行った。

ア 構成：大学教授、臨床心理士、家庭裁判所調査官、児童相談所児童福祉士、民生委員、学校長、保護者、スポーツ少年団関係者（12人）

イ 経過：平成19年6～8月：会議開催（3回）

平成19年9月：「いじめ問題に関する新たな提言」受取

平成20年3月：提言をもとに、各学校が実践したいじめに関する取組を事例集として集約

イ) スクールカウンセラー配置事業

臨床心理士等のスクールカウンセラーを県内全公立中学校（165校）へ配置し、生徒・保護者へのカウンセリングや、教職員への指導助言を行った。

ロ) スクールサポーター配置事業

不登校生徒が存在し、かつ4学級以上の公立中学校（140校）、及び小学校（20校）に地域人材等を活用したスクールサポーターを配置し、児童生徒や保護者の訪問支援等を行った。

エ) 「心の専門家」派遣事業

公立小学校に、不登校等、学校不適応の状況にある児童生徒のケース会議に臨床心理士等の「心の専門家」を派遣し、今後の対応方針等について助言を行った。（40校、延べ120回）

オ) 不登校対策のための教員派遣事業（深刻な不登校問題を抱える中学校40校に非常勤講師を配置）

- か) 高等学校生徒指導マネジメント事業
 - ア 生徒指導コーディネーター養成事業
生徒指導の諸課題に対する専門的知識を持ち、関係機関等と積極的に連携を取りながら解決を図るコーディネーターを養成した。(15人)
 - イ 生徒指導校内研修支援事業
公立高等学校が行う生徒指導の諸課題に関する校内研修に際して、外部講師の招へい等についての支援を行った。(34校)
 - ウ カウンセラー派遣事業
公立高等学校にカウンセラーを派遣して、生徒・保護者等へのカウンセリングや教員への助言を行い、生徒の心の問題等への学校の対応力の向上を図った。(35校、1校あたり年8回)
- き) 進路相談事業
中・高等学校における不登校生徒や高等学校中途退学者の適切な進路選択を支援するため、3会場ごとに、進路相談会を各2回実施した。(相談件数：延べ約1,100件)
- く) 問題を抱える子ども等の自立支援事業
長期に及ぶ不登校の状態になることを未然に防ぐために有効な支援策として、地域における教育と福祉及び保健・医療領域との連携を進めていくとともに、連携を推進するコーディネーターを養成した。
また、いじめ、不登校、暴力行為、高校中退、児童虐待の5つの課題について、未然防止、早期発見、早期対応の効果的な取組について、地域の課題を明確にし、課題解決に向けた取組の工夫や効果的な方策を見出すための研究を市町村において行った。(11市町)

(エ) 児童生徒健全育成推進に係る事業

- ア) 岡山県学校警察連絡協議会
学校と警察が連携して児童生徒への健全育成に関する取組を推進し、児童生徒の問題行動への対応の充実を図った。(県内22署の地区学警連会長及び警察、並びに教育行政関係者等による総会を2回実施)
- イ) 生徒指導ネットワーク事業
指導課内に警察OB等による生徒指導ネットワーク相談員3人を配置し、学校からの要請に基づき、問題行動ケース会議や非行防止教室等を開催し、学校と関係諸機関との行動連携の促進を図った。
- ウ) 生徒指導総合連携推進事業
指定地域において、地域の関係機関が一体となって、少年非行等の多様な問題行動の予防と解決に向けて、地域のネットワークづくり等、実践的な取組を行った。(指定地域：真庭市)
- エ) 生徒指導推進協力員配置事業
小学校段階からの問題行動への指導体制強化として、経験豊富な中・高等学校教員OBや警察官OB等を生徒指導推進協力員として配置し、中学校区内の小中学校を巡回した。
(3市5中学校区14小学校)

<協働の成果>

臨床心理士などの専門家や、児童相談所や家庭裁判所、警察などの関係機関との連携を深め、児童生徒の心のケアとともに、きめ細やかな対応に努めた。

(参考数値)

公立中学校におけるスクールカウンセラー配置校数	H18	H19	増減
	65	165	100

(3) 高等学校教育体制の整備・充実

施策の目標

多彩な才能をはぐくむ創意ある教育活動を展開する活力ある学校づくりを目指し、高等学校教育体制の整備・充実に取り組む。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年7月6日(金)]

○平成20年度岡山県立高等学校の学科の設置等について

- ・玉島商業高等学校ビジネス情報科の設置、高梁城南高等学校環境科学科の設置、玉野高等学校国際科の廃止、総社高等学校普通科自然探究コースの設置、岡山操山高等学校通信制課程によるICT(情報通信技術)を活用した学習支援システムの導入については、中学生に選択の幅を与え、サービスメニューを充実させるということで、内容については理解できるが、数年やってみて、その結果がどうだったかの評価を必ずしてほしい。
- ・学科改編の効果について客観的に評価し、今後の高等学校の在り方を検討していかなければならない。
- ・それぞれの学校の特色や財産、人材を生かしながら改編を進めることはいいことだと思うが、常に評価しながら進めてほしい。

[平成19年7月27日(金)]

○県立高等学校の再編整備について

- ・弓削高等学校については、岡山御津高等学校よりも津山工業高等学校と一緒にする方が教科内容を見てもよいと思う。
- ・形式的に割り切って答えを出すのではなく、例外的なことをどこまでできるかを考えないといけない。定規で線引きするようなことはできない。

○ 施策の概要

ア 入学者選抜制度・方法の改善

(ア) 自己推薦による入学者選抜の実施

多様な能力・適性や意欲・関心を持つ生徒が、自分にあった進路を主体的に選択し、入学後も意欲的に学校生活を送れるようにするため、また、希望する全ての生徒に受検の機会を拡大するために、自己推薦による入学者選抜を全県立高等学校で実施した。

これにより、高等学校においても、学科等の特色に応じた選抜資料、選抜方法を工夫することにより、自校にふさわしい生徒の入学を一層促進する。

(イ) 学力検査問題の自校作成

入学者選抜において、受検者の学力や適性等によりきめ細かく応じた選抜を実施するため、希望する学校において、一般入学者選抜の学力検査問題を各高等学校が独自に作成した。

(実施校及び作成教科：岡山朝日高等学校(国語、数学、英語))

(ウ) 学力検査の得点の簡易開示

岡山県個人情報保護条例に基づき、一般入学者選抜で実施する学力検査の各教科の得点を簡易な方法による開示請求によって受検者本人に開示した。

(エ) 県立高等学校の生徒募集定員

平成20年度県立高等学校第1学年の生徒募集定員は、本県の学区制の趣旨に照らし、進学機会の確保と中学校卒業者の進路の適正化に資するため、県高等学校教育研究協議会の答申等の趣旨

を尊重しながら、県内各地域の中学校卒業生数の動向、公私立高等学校間の教育分担、中学校卒業生の進学希望状況などを慎重に見きわめ、次のとおり策定した。

課 程	学 科 名	平成20年度定員A	平成19年度定員B	前年度差 A - B
全 日 制	普 通	6,420人	6,420人	—
	普通科系の専門学科	720人	760人	△40人
	農 業	705人	705人	—
	工 業	1,720人	1,720人	—
	商 業	1,480人	1,480人	—
	家 庭	480人	480人	—
	看 護	120人	120人	—
	情 報	40人	40人	—
	福 祉	40人	40人	—
	その他の専門学科	150人	170人	△20人
	総 合 学 科	560人	560人	—
	計	12,435人	12,495人	△60人
定 時 制	普 通	120人	120人	—
通 信 制	普 通	500人	500人	—
専 攻 科	看 護	120人	120人	—

※普通科系の専門学科は、理数科、国際情報科、体育科、未来創造科及びキャリア探求科

※その他の専門学科は、総合情報科、環境科学科、環境技術科及び環境デザイン科

イ 高等学校の魅力づくり

(ア) 活力ある高等学校づくりの推進

「高等学校の新しい構想づくり懇話会」の報告（平成15年3月）における提言の具現化を目指した実践的研究を進めるため、平成15年度から「新しい構想に基づく高等学校づくり推進事業」を行ってきたが、平成19年度からは「活力ある高等学校づくり推進事業」を実施し、高等学校の魅力づくりに向けた研究を継続した。

岡山大安寺・玉島商業・玉野・総社・岡山操山通信制課程の5校について、学校と県教育委員会とで推進協議会を設置し、平成20年度の導入・実施に向けた具体的な検討を進め、玉島商業・玉野・総社において学科・コースの改編を、岡山操山通信制課程にICTを活用した学習支援システム導入を決定した。

岡山大安寺については、平成20年度以降の導入・実施に向け、継続して研究の具体化を目指した。

○学科を改編するもの

玉島商業高等学校商業科、会計科→ビジネス情報科（平成20年度）

○学科を廃止するもの

玉野高等学校国際科→募集停止（平成20年度）

○ICTを活用した学習支援システムを導入するもの

岡山操山高等学校通信制課程（平成20年度）

(イ) 中高一貫教育の推進

平成19年4月に、倉敷天城高等学校に併設する倉敷天城中学校を開校し、科学的思考力や国際的な感覚等の育成に努めている。

ウ 県立高等学校の再編整備

岡山県立高等学校教育体制整備実施計画に基づき、平成14年4月に13グループ30校を検討対象校として決定し、平成14年度は6グループ16校[注1]、平成15年度は5グループ11校[注2]の検討に着手した。

そのうち、平成14年度検討着手第一期の大原・江見商業・林野高等学校グループについては、平成16年4月に大原・林野高等学校を再編整備し、新しい林野高等学校が開設したが、その後、江見商業高等学校との再編整備を段階的に実施し、4月に新しい林野高等学校を開設した。

残る真庭地域4校（落合・久世・勝山・蒜山高等学校）及び弓削高等学校の再編整備については、8月にそれぞれプロジェクトチームを設置して、再編整備の検討に着手した。

その際、連携型中高一貫教育を導入し単独でその在り方を研究してきた蒜山高等学校については、今後の在り方を真庭地域の再編整備に含めて検討すること、弓削高等学校については、生徒の通学実態等を勘案し、従来の検討対象校グループを変更して津山工業高等学校との再編整備を検討することとした。

[注1]川上農業・成羽・高梁工業高等学校グループ

至道・落合・(久世)・(勝山)高等学校グループ

大原・江見商業・林野高等学校グループ

矢掛・矢掛商業高等学校グループ

児島・琴浦高等学校グループ

新見・新見北高等学校グループ

[注2]金川・福渡・(弓削)高等学校グループ

備作・和気閑谷高等学校グループ

日本原・勝間田高等学校グループ

吉備北陵・高梁高等学校グループ

井原・精研高等学校グループ

エ 再編整備実施に伴う通学費貸付事業

再編整備に伴い遠距離通学を余儀なくされる生徒に対し、通学費負担増の激変緩和措置として、期間を限定した通学費貸付制度を実施した。

募集停止した 高 校	対象中学校	指定高校	貸付月額 (円)	貸付者数 (人)	貸付額 (千円)	対象期間
成羽高校	成羽中学校 川上中学校 備中中学校	高梁高校 高梁城南高校 (高梁校地)	18,000	1	216	H16～H20 (H16.3～H18.3 中学校卒業)
至道高校	有漢中学校 北房中学校	高梁高校 高梁城南高校 (高梁校地) 落合高校 久世高校		3	648	H16～H20 (H16.3～H18.3 中学校卒業) ※落合高校看護 科は5年一貫教 育のためH22ま で実施
大原高校	大原中学校 西栗倉中学校	林野高校 江見商業高校		8	1,728	H16～H20 (H16.3～H18.3 中学校卒業)
福渡高校	建部中学校	岡山御津高校 弓削高校				H17～H21 (H17.3～H19.3 中学校卒業)
備作高校	吉井中学校 英田中学校 佐伯中学校 柵原中学校	津山高校 津山工業高校 津山商業高校 津山東高校 和気閑谷高校 瀬戸高校 瀬戸南高校 勝間田高校 林野高校		6	1,188	H17～H21 (H17.3～H19.3 中学校卒業) ※津山東高校看 護科は5年一貫 教育のためH23 まで実施
日本原高校	勝北中学校 奈義中学校	津山高校 津山工業高校 津山商業高校 津山東高校 勝間田高校 林野高校		19	4,104	H17～H21 (H17.3～H19.3 中学校卒業) ※津山東高校看 護科は5年一貫 教育のためH23 まで実施
吉備北陵高校	加茂川中学校 竹荘中学校 吉川中学校 大和中学校	高梁高校 高梁城南高校 岡山御津高校		10	2,106	H18～H22 (H18.3～H20.3 中学校卒業)
江見商業高校	大原中学校 作東中学校 西栗倉中学校	林野高校 勝間田高校		8	1,728	H19～H23 (H19.3～H21.3 中学校卒業)
合	計				55	11,718

(4) 学習環境の整備・充実

施策の目標

総合教育センターを中核に教職員の一層の資質向上を図るとともに、耐震化をはじめとする施設等の整備・充実に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年10月19日（金）]

○平成19年度末校長・教員等人事異動要綱について

- ・市間、郡市間交流を積極的に推進するとあるが、南北の交流も積極的に行ってほしい。
- ・岡山市が政令指定都市になったときにどうなるかを見据え、よく考えておかないといけない。

[平成20年2月8日（金）]

○教員免許更新制の概要について

- ・免許状更新講習の内容について、現場の意見やニーズは聞いているのか。
- ・国に対して、教育長からも我々の意見を聞いてほしいと伝えてもらい、知事からも地方分権の考えから、こういうことは現場の先生の意見を聞いて進めてほしいということも言ってもらえないだろうか。

[平成20年2月22日（金）]

○高校生「県産材活用」UD整備事業及び高校生「エコ広場」UD整備事業について

- ・もっと高校生自身が作ったりなど、自分たちが活動することを増やすようにしたら、さらによい。

○ 施策の概要

ア 開かれた学校づくりの推進

(ア) 学校自己評価・学校評議員制度の実施

小・中・高・特別支援学校の教頭、教諭を対象に、開かれた学校づくりの在り方等について、実施校等の成果を基に研修講座を実施するとともに、学校運営や教育内容について、全ての県立学校に「学校評議員」を設置し、保護者や地域住民の意向を把握し反映することにより、開かれた学校づくりを一層推進した。

(イ) 学校評価推進のための実践研究

本県における学校評価システムの在り方について検討をするとともに、推進地域において研究をより一層深め、新学校評価システムの効果的な運用や「外部評価の手引き」の作成、研修の在り方の検討を行った。（推進地域：矢掛町）

イ 教職員の資質向上

(ア) 新県総合教育センターの整備

県総合教育センターは、県教育センターと県情報教育センターが老朽化したこと、さらには、時代の進展に適切に対応した教育の充実を図るため、両センターを統合し、発展拡充した教職員の研修機関としてPFI方式により整備し、平成19年4月に吉備中央町に開所した。

新たに生徒指導部と特別支援教育部を設け、総務課、教育経営部、教科教育部、情報教育部とともに、1課5部の体制で、学校の教育力や教職員の資質向上を図るための研修の実施や、ニーズに応じた学校への支援などを行っている。

建物は本施設が1課5部の機能を持つ複合施設であることから、各部門の独立性を確保しながらも部門間の機能連係を図りやすい施設となるよう配慮されている。

また、施設全体としてハートビル法の認定を取得し、ユニバーサルデザイン・バリアフリーに十分配慮するとともに、太陽光発電や雨水再利用などを導入し、人と環境に優しい施設となっている。

ア) 施設概要

- ア 敷地面積：約64,160㎡（進入路等含む）
- イ 建築面積：約 4,390㎡
- ウ 延床面積：約10,660㎡
- エ 階 層：地上4階 塔屋1階
- オ 構 造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- カ 駐 車 場：600台収容（400台＋臨時駐車場200台）
- キ そ の 他：グラウンド（200mトラック）

イ) 業務内容

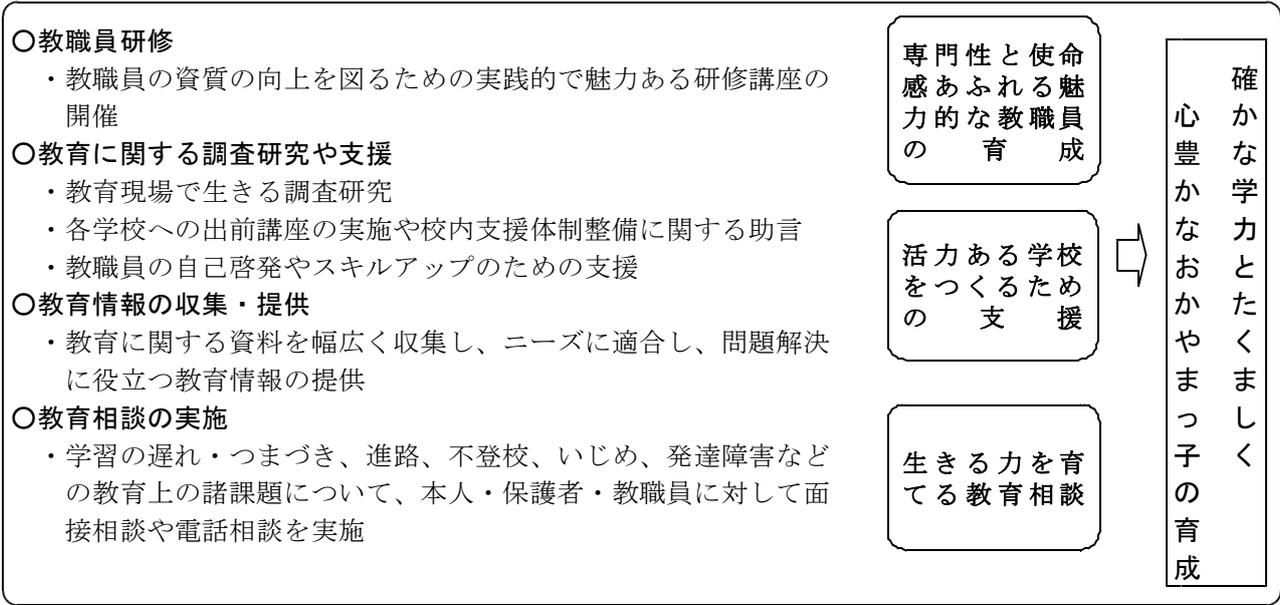
- ア 教職員研修
- イ 教育に関する調査研究
- ウ 教育情報の収集及び提供
 - ・ 図書・資料の収集・提供
 - ・ マルティメディア教材の収集・貸与
 - ・ カリキュラムサポート（学習指導案、教材作成等の支援）等
 - ・ インターネットによる情報発信

エ 学校支援

- ・ 要請訪問

町村教育委員会の要請を受けて、指導主事を学校に派遣し、教育課程、学習指導、生徒指導上の諸課題の解決について助言を行うなど、域内の学校力向上のために必要な支援を行った。
- ・ 学校力向上サポートキャラバン事業

市町村教育委員会や学校等の要請を受けて、研究会や研修会に指導主事を派遣し、学校力向上及び時代の進展に対応した教育等についての講義・助言を行うなど、各地域及び学校の教育活動の充実のために必要な支援を行った。



<協働の成果>

外部講師や吉備高原都市内の施設を活用した教職員研修の開催、医師による教育相談の実施など、外部人材や地域資源を積極的に活用した。また、民間のノウハウを導入した施設管理（PFI方式の導入）を行った。



総合教育センター全景

(参考数値)

総合教育センター研修受講者(延べ人数)	H18	H19	増減
	(12,892)	29,526	※

※平成18年度は、(旧)教育センター及び(旧)情報教育センターにおける数値であり、単純に比較することはできないが、参考として掲載した。

(イ) 県教職員研修講座

教職の重要性と教育についての基本的理念を十分認識し、資質・識見の向上、指導力の充実を図ることを目的とした「県教職員研修講座」を、県総合教育センターを中心として企画・実施した。

ア) 基礎・基本研修

- ア 経験年数別研修：ライフステージに応じた資質・能力の向上
(初任者(新規採用者)研修、5年経験者研修、10年経験者研修、**新**15年経験者研修)

イ) 発展・応用研修

- ア 職能研修：職に応じた資質・能力の向上
(担当者研修、主任研修、教頭研修、校長研修)
- イ 教科領域別研修：受講者の希望する教科領域の資質・能力の向上
(教育経営研修、教科教育研修、生徒指導研修、特別支援教育研修、情報教育研修)
- ウ 課題別研修：喫緊の課題等に対応した領域の資質・能力の向上

エ) 教育職員免許法等に定められた研修会

免許法認定講習(小・中・養護学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭二種免許状取得希望者及び実習助手)

(ウ) 内地留学等派遣

教員としての知識及び技術を深めさせ、その資質の向上と指導力の充実を図るために、公立学校の教員を大学院等に派遣した。

- ア) 大学院派遣(兵庫教育大学大学院：5人、岡山大学大学院：8人)
- イ) 産業教育(岡山大学：3人、県立大学：2人、民間企業：2人)
- ウ) 特別支援教育(岡山大学：1人、国立特別支援教育総合研究所：3人、社会福祉施設：2人)

(エ) 独立行政法人教員研修センター研修講座への派遣

独立行政法人教員研修センターが、校長・教頭、中堅教員等に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その見識を高め、指導力の向上を図ることを目的に実施している研修講座に、公立学校の教員を派遣した。

- ア) 校長・教頭等研修：13人
- イ) 中堅教員研修：15人

(オ) 教員の長期社会体験研修

社会の構成員としての視野の拡大や発想の転換など教員の資質の向上を図る観点から、長期に

わたくし民間企業や社会福祉施設等の学校以外の施設等へ教員を派遣した。

ア) 派遣対象：原則として教職経験10年以上で35歳以上の者

イ) 派遣人数：小学校8人、中学校8人、高等学校10人、特別支援学校2人

ウ) 派遣期間：6か月

(カ) 大学院修学休業

教員の自発的意思に基づく専修免許状取得のため、国内外の大学院等への修学機会を確保した。

(キ) 岡山大学教育学部との連携協力

平成12年9月1日に岡山大学教育学部との間で「連携協力に関する覚書」締結した。

平成19年度は、「連携協力会議専門部会」（5月8日開催）と「連携協力会議」（8月21日開催）において実施内容等協議しながら、次の事項について取り組んだ。

ア) 教員養成に関する事項

日本語指導の必要な外国人子女への学生ボランティアによる教科学習支援、県総合教育センターにおける研修講座及び発表会の学生への公開、現職教員等による教員養成への協力、教職志望学生のインターンシップ事業、学校における情報教育充実のための学生ボランティア派遣、学生による学力向上支援事業への協力

イ) 教員研修に関する事項

教員研修の共同開催、英語教員の資質向上のための研修、算数・数学教育指導力向上推進事業、10年経験者研修への協力、家庭科教員の資質向上のための研修、サイエンスパートナーシップ・プロジェクト、中・高等学校美術科の授業作り等

ウ) 学校教育上の諸問題への対応に関する事項

子ども24時間電話相談事業への多面的な連携協力、「生きる力」支援事業、教職員のメンタルヘルス対策、大学・大学院での教員養成カリキュラムの改善

エ) その他両者が必要と認める事項

生涯学習施設等での学生の実習、附属学校園を活用した研修講座の開催、情報化に対応した教育の充実、県生涯学習大学「大学院コース」講座の開設

オ) 重点事業（平成19年度）

教職希望学生の学校教員インターンシップ事業、教員研修の共同開催、「授業で勝負！」支援事業

(ク) 教育研究団体助成

幼・小・中・高等学校等の教育研究団体の研究活動を促進するため、各種研究大会の開催、研究調査の実施等に要する経費の一部を助成した。（7団体 2,400千円）

(ケ) 新しい教職員の評価システム等の在り方に関する調査研究

平成18年度から県内の全公立学校に導入した「新しい教職員の評価システム」が、教職員の資質能力の向上と学校組織の活性化のために、更に有効なものとなるよう、「新しい教職員の評価システム調査研究委員会」で実施状況の調査や定着に向けた研究を行い、実施要綱、実施マニュアルの改訂を行った。

また、校長・教頭を対象とした評価者研修を実施するとともに、校内研修で活用できる「新しい教職員の評価システムに係る研修資料」を作成し、評価システムの今後の取組の充実に努めた。

なお、指導力不足等教員の取扱いに関する規則に基づき、指導力不足と認定した5人に対して、指導力向上に向けた研修を実施した。

ウ 教職員の確保と適正配置

(ア) 公立小・中学校教職員定数

公立小・中学校の教職員定数は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づき算定されたものである。小学校では61人、中学校では4人の減となっている。

平成19年度の教職員数（標準法定数）は、次表のとおりである。

区分	校長	教員	養護教員	事務職員	学校栄養職員	計
小学校	421人	5,957人	437人	433人	135人	7,383人
中学校	165人	3,453人	169人	172人	57人	4,016人

(イ) 特別支援学校教職員定数

特別支援学校の教職員定数は、県立岡山南養護学校が新設されたため、47人の増となった。

区 分	校 長	教 員	養護教員	事務職員	学校栄養職員	実習助手	計
特別支援学校	12人	(84) 人 1,042	21人	49人	11人	28人	(84) 人 1,163

() は、寄宿舍指導員数で内数

(ウ) 公立定時制高等学校教職員定数

平成19年度は、生徒数や学級数にほとんど増減がなく、教職員定数は1人の増となった。

生 徒 数	教 職 員 数			計
	教 員	実習助手	事務職員	
2,193人	254人	1人	4人	259人

(エ) 県立全日制高等学校教職員定数

平成19年度は、県立全日制高等学校生徒数の減少に伴う学級減のため、教職員定数は74人の減となった。

生 徒 数	教 職 員 数			計
	教 員	実習助手	事務職員	
37,214人	2,792人	253人	242人	3,287人

(オ) 単県教職員の確保

へき地小規模校について、変則複式学級及び単複繰り返し学級で指導困難な学校に対して特別に教員を配置したり、大規模な中学校第1学年の学級編制の弾力化を実施するなど、次表のような単県施策による教職員定数の確保を行い、教育水準の向上を図った。

区 分	平成19年度定数
過疎・へき地対策	39人
指 導 対 策	69人
寄 宿 舎 対 策	8人
病 休 代 員	3人
学 級 編 制	56人
合 計	175人

(カ) 教職員の適正配置

年度末の教職員人事異動においては、県下全ての教職員が使命感に燃え、市部・郡部・へき地等あらゆる地域の教育を分担するとともに、異なる地域・規模・校種等での幅広い豊かな経験を積むことによって、学校教育のより一層の充実が図られるよう努めた。

また、教員の採用に当たっては、個性豊かで多様な人材を幅広く確保するため選抜方法の工夫改善を図った。

学校校種ごとの異動状況は次表のとおりである。

区 分	退 職	転 任	新 採 用	計
小 学 校	247人	1,051人	184人	1,482人
中 学 校	92人	526人	96人	714人
高 等 学 校	103人	345人	36人	484人
特別支援学校	34人	100人	48人	182人
計	476人	2,022人	364人	2,862人

エ 健康と福利厚生

(ア) 教職員の健康管理対策

検 査 事 項		対 象	受 診 者 数	
定期健康診断	呼吸器検診	X線直接撮影	全員	5,458人
	消化器検診	X線撮影	35歳以上	3,985人
		血圧・尿	全員	5,176人
	循環器検診	血液検査（貧血・肝機能・血中脂質・血糖）	35歳、40歳以上、新採用	3,730人
心電図検査		35歳、40歳以上、新採用	3,688人	
肺がん検診	喀痰検査	40歳以上の調査抽出	536人	
大腸がん検診	免疫的便潜血反応	40歳以上	1,249人	
短期人間ドック	呼吸器・消化器・循環器検診等	45、50、60歳	1,277人	
VDT健康診断	眼科学的検査等	調査抽出	159人	

(イ) 教職員のメンタルヘルス対策

事業名	内 容	参加人数等
岡山県教職員復職支援システム	精神疾患等で休職した教職員の円滑な職場復帰と再発防止のため、休職者や所属長に対して休職中から復職後まで継続的かつ段階的な支援を行った。 ・岡山県教職員健康診断審査委員会「メンタルヘルス部会」の設置 ・復職プログラムの実施	実施者53人
管理職メンタルヘルス相談	専門家による、管理職のための職場のメンタルヘルスに関する面接相談を実施した。 (相談機関：岡山大学大学院教育学研究科)	7件
心とからだの健康相談	福利課技師（保健師）による職場や家庭生活における心身の諸問題等に関する相談を実施した。	面接 83件 電話 73件 メール 9件
管理職メンタルヘルス研修会（※）	メンタルヘルスに対する、必要な知識・技術の習得を支援するため、県教育委員会事務局、教育機関及び公立学校の管理職を対象に年2回実施した。	44人
同僚性を形成するための研修講座（※）	互いに支え合う学校風土をつくり、よりよい教育活動を展開するために、教職員の「同僚性」を形成するための実践力を養うことをねらいとして、公立学校教職員を対象に年4回実施した。	115人

※平成19年度から岡山県総合教育センターで実施。

(ウ) 安全衛生管理体制の充実

所属訪問	県立学校等の所属長を対象に、教職員の健康管理等についての情報提供を行い、職場の安全衛生管理体制の充実を支援した。	19所属
------	----------------------------------------------------------	------

(エ) 喫煙対策

「健康増進法」や「健康おかやま21」の趣旨を踏まえ、学校が児童生徒の健康被害の防止や喫煙防止教育を推進している教育機関としての社会的役割を一層充実するために、平成20年度からの県立学校の敷地内禁煙化に向けて周知を図った。

産業教育施設整備費	134,678,955	瀬戸南高、高梁城南高
県立高等学校 環境整備費	40,234,450	岡山朝日高 倉敷商業高、岡山聾 備前緑陽高、久世高
県立高等学校 建物管理費	453,029,028	高等学校建物修繕等、教職員住宅改修 アスベスト対策（別表へ詳細掲載）
特別支援学校 校舎整備費	531,307,070	誕生寺養護、岡山聾（岡山東養護分教室）
県立中学校整備費	244,559,640	岡山操山中
計	3,650,419,269	

耐震補強工事例（笠岡高校）

補強前



補強後



（参考数値）

県立学校の耐震化率	H18	H19	増減
	51.4%	55.4%	4.0%

（イ）アスベスト対策事業

吹付アスベスト等使用実態調査の追加調査を行い、新たに5施設で吹付アスベストの使用が判明し2施設の対策工事を行った。

事項名	決算額（円）	備考
県立高等学校 校舎等整備費	解体費用に含む	岡山朝日高
県立高等学校 建物管理費	556,500	倉敷商業高
計	556,500	

（ウ）市町村立学校校舎、屋内運動場等の整備指導

公立小中学校施設整備については、児童生徒急増期に建築した校舎等の老朽化、近年の少子化に伴う児童生徒の減少や市町村合併などによる学校統合の進展により生じた廃校施設等の有効活用、また、多様な学習活動等に対応した施設づくりなど多くの課題を抱えている。

中でも特に、学校施設は災害時に地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、早急に耐震性能の向上を図っていくことが重要であるため、文部科学省が示した学校施設耐震化推進指針に基づき、校舎等の耐震診断結果の公表や耐震化計画の策定について、市町村に対し指導を行った。

市町村が新增改築を行うに当たっては、教育内容・教育方法等の多様化に対応したものとするとともに、バリアフリー化や教室内の空気汚染対策にも配慮するよう教育環境の質的向上を図るよう技術的・事務的な指導を行った。

また、全国の学校施設等における吹付アスベスト等使用実態調査が実施され、飛散の恐れのある施設については、除去等の飛散防止措置など施設の安全性確保が図られるよう指導を行った。

事業名	市町村数	学校(園)数	国庫補助額(千円)
新增改築事業	9市2町	小8、中4	1,138,508
大規模改造事業	7市1町	小8、中5	320,110
うちアスベスト対策	5市1町	小5、中3	28,360
地震補強事業	6市2町	小15、中11	275,045
屋外教育環境整備事業等	1市	中1	19,594
合計	13市4町	小27、中19	1,753,257

※合計欄は、実数(市町村数、学校(園)数)

(エ) 教育設備の整備拡充

教育指導の一層の充実、徹底を図るため、小・中・高・特別支援学校における設備の充実に努めた。

ア) 産業教育関係設備の充実と老朽設備の更新

産業教育振興法に基づき、一部国庫支出金の交付を受けて、次のとおり高等学校に産業教育関係設備を整備するとともに、その他の基準設備の整備及び老朽設備の更新を行った。

区分	県立学校		
	学校数	整備額(千円)	
		事業費	うち国庫
特別装置	14	189,740	69,028

イ) 理科教育関係設備の充実促進

理科教育振興法等に基づく国庫支出金の交付を受けて、理科教育関係設備を次のとおり整備した。

区分	県立学校		市町村立学校	
	学校数	整備額	学校数	整備額
理科設備	25	50,160千円	176	52,332千円
算数・数学設備	—	—	11	986千円
計	25	50,160千円	187	53,318千円

(オ) 就学・進学奨励制度

ア) 高等学校奨学金事業

勉学意欲がありながら経済的理由により修学困難な高校生に対し、奨学金を次のとおり貸与した。

区分	国公立				私立				計	
	自宅		自宅外		自宅		自宅外		人員	金額
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額		
前年度からの継続	人 75	千円 15,696	人 0	千円 0	人 167	千円 57,870	人 5	千円 1,715	247	千円 75,281
平成19年度採用	62	13,266	6	1,656	119	42,090	3	1,260	190	58,272
計	137	28,962	6	1,656	286	99,960	8	2,975	437	133,553

イ) 育英事業

ア) 県補助金事業によるもの

本県における育英事業は、財団法人岡山県育英会により実施されているが、奨学金の貸与状況は次のとおりである。（平成19年度から大学・短期大学の新規採用廃止）

区 分	高 等 学 校		短 期 大 学		大 学		計	
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額
前年度からの継続	人 67	千円 14,472	人 21	千円 11,340	人 266	千円 155,316	人 354	千円 181,128
平成19年度採用	34	7,344	-	-	-	-	34	7,344
計	101	21,816	21	11,340	266	155,316	388	188,472

イ) 旧日本育英会業務移管に伴う予算措置によるもの

旧日本育英会高等学校奨学金業務移管に伴う国からの交付金を受け、財団法人岡山県育英会により高等学校奨学金貸付事業を実施しているが、奨学金の貸与状況は次のとおりである。

区 分	高 等 学 校 等								合 計	
	国 公 立				私 立					
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外		人 員	金 額
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額		
前年度からの継続	人 666	千円 143,532	人 54	千円 14,835	人 289	千円 103,710	人 40	千円 16,800	人 1,049	千円 278,877
平成19年度採用	367	78,876	24	6,417	223	79,410	32	13,335	646	178,038
計	1,033	222,408	78	21,252	512	183,120	72	30,135	1,695	456,915

ウ) 特別支援学校就学奨励費補助制度の充実

特別支援学校に就学する幼児児童生徒に対し、保護者の属する世帯の収入額と需要額の割合に応じ、3段階に分けて保護者に就学奨励費を支給した。

エ) 定時制・通信制高等学校修学奨励制度の充実

働きながら学ぶ高等学校の定時制課程及び通信制課程に在学する生徒の修学促進を図るため、修学奨励費を次のとおり貸与した。

区 分		学 校 数	貸 与 者 数	貸 与 額
定 時 制 課 程	公 立	6	19人	3,136千円
	私 立	—	—	—
	計	6	19人	3,136千円
通 信 制 課 程	公 立	1	1人	168千円
	私 立	1	1人	168千円
	計	2	2人	336千円
合 計		8	21人	3,472千円

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年
私 立 定 時 制	29,000円	29,000円	29,000円	29,000円
そ の 他	14,000円	14,000円	14,000円	14,000円

カ) 幼稚園就園奨励費補助制度の充実促進

国庫補助金の交付を受けて21市町村が実施した幼稚園就園奨励事業の概要は次のとおりである。

区 分	補助対象園児数	事 業 費	国庫補助金額
公 立 幼 稚 園	553 人	12,458 千円	3,293 千円
私 立 幼 稚 園	3,240 人	228,466 千円	60,391 千円
計	3,793 人	240,924 千円	63,684 千円

(5) 特別支援教育の推進

施策の目標

障害の状態や発達段階等に応じて、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすよう、その環境を整備・充実する。

【教育委員会での主な審議内容】

[平成19年5月18日(金)]

○平成19年度岡山県立特別支援学校への就学等の状況について

・岡山県立特別支援学校の新規就学児童生徒数、幼児児童生徒数、卒業生の進路状況について

[平成19年7月27日(金)]

○特別支援教育の取組について

○ 施策の概要

ア 教育体制の整備

- (ア) 誕生寺養護学校校舎整備の実施
- (イ) 特別支援教育体制整備プロジェクト会議の開催(年11回)
- (ウ) 特別支援教育推進検討委員会の開催(年5回)
- (エ) 特別支援学校における医療体制の整備
 - ・肢体不自由部門への看護師配置
 - ・医療的ケア充実事業
- (オ) 岡山南養護学校の開校
- (カ) 就労による社会自立を目指す高等部単独の特別支援学校の開校準備
(岡山地域：平成21年度、倉敷地域：平成22年度開校予定)

イ 就学指導体制の整備充実

- (ア) 県特別支援教育就学指導委員会(全体会2回、専門部会9回)
- (イ) 巡回就学相談(県下6会場、各1日、相談件数100件)
- (ウ) 就学指導等地方研究協議会(市町村教育委員会等対象4会場、各1日)
- (エ) 就学指導等連絡協議会の開催
(市教育委員会、教育事務所、児童相談所、特別支援学校就学指導担当者等対象、1日)

ウ 教職員の指導力の向上

- (ア) 内地留学、各種研究大会等への教員派遣
- (イ) 教職員研修
 - ア) 特別支援教育教育相談研修講座、特別支援教育授業づくり研修講座、自閉症児の理解と支援研修講座、重度・重複障害児の理解と支援研修講座
 - イ) 発達障害(LD、ADHD、高機能自閉症等)児の理解と支援研修講座、心理教育的アセスメント演習講座
 - ウ) 免許法認定講習(視・聴・知(各1単位)、視・聴・知・肢・病共通(2単位))
 - エ) 特別支援学級等新任担当教員研修講座
 - カ) 特別支援学級等担当教員研修講座
 - キ) 特別支援教育教育課程研究協議会(小学校及び特別支援学校小学部)
- (ウ) 特別支援学校における初任者研修、10年経験者研修、15年経験者研修の実施

エ 特別支援教育の推進

(ア) 特別支援教育推進事業

- ア) 特別支援学校のセンター的機能充実事業
 - ア 小・中学校の特別支援学級等への支援
 - イ 公開講座の開催
- イ) 高等学校への支援
 - 発達障害の理解と支援の促進のためのリーフレットの作成・配付
- ウ) 校内支援データベース作成事業
 - 児童生徒に対する具体的な支援の手立てをデータベースとして広く提供
- エ) 特別支援教育啓発事業
 - ア 新任特別支援教育コーディネーター養成研修（年4回）
 - イ 発達障害（ADHD等）研修講座（幼稚園：年1回）
 - ウ 発達障害（ADHD等）研修講座（高等学校：年1回）
 - ※ 障害のある児童生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた適切な教育を実施するため、特別支援教育についての理解・啓発を図り、県内ほぼ全ての小・中学校において、特別支援教育に関する校内委員会の設置及び特別支援教育コーディネーターの指名が行われ、校内支援体制が整備された。

(イ) 特別支援教育サポート事業

- ア) 特別支援連携協議会の設置（広域：年2回、地域：4支援地域、年2回）
 - 教育・福祉・医療等関係機関の連携協力
- イ) 専門家チームの設置（4支援地域）
 - 大学教授・医師・臨床心理士等で構成、巡回相談員と同行して実態把握・助言等
- ウ) 巡回相談員の派遣（4支援地域）
 - 特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の教員で構成、小・中学校等を訪問しての実態把握・指導助言等
- エ) 専門家チーム・巡回相談員連携会議の開催（4支援地域・年2回）
- オ) 巡回相談員連絡協議会（4日間）

(ウ) 市町村における支援体制整備

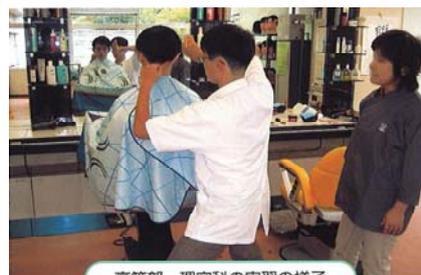
- ア) 特別支援教育体制推進事業
 - （指定先（地域指定）：津山市、真庭市、美作市 平成19年度文部科学省委嘱事業）
- イ) 発達障害早期支援モデル事業
 - （指定先（地域指定）：笠岡市 平成19～20年度文部科学省委嘱事業）

(エ) 「はじめての特別支援学級」の作成・配付

（配付先：幼・小・中・高・特別支援学校（幼・小・中は、中核市以外））

(オ) 進路指導の充実

- ア) **新**いきいきジョブ支援事業
 - 特別支援学校生徒の職業自立に向けて、働く意欲の向上、自己の適性理解等を図るため、支援員のサポートのもと、企業における就労体験を実施
- イ) キャリア教育推進事業
 - 県立特別支援学校にキャリア教育支援員を配置し、進路先の開拓等を実施
- ウ) 社会自立総合推進事業
 - 特別支援学校高等部生徒の社会自立を積極的に推進するため、職業能力の開発、現場実習、進路開拓、職場適応指導等を実施



高等部 理容科の実習の様子

オ 障害児に対する正しい理解の推進

(ア) 特別支援学校体験入学事業

(児童生徒、保護者、教育委員会担当者、教職員及びボランティア等対象)

(イ) ところをつなぐ作品展

<協働の成果>

大学教授、医師、臨床心理士で構成された専門家チームの派遣で、大学や医療機関等との連携により、幅広く地域の人材を活用することができた。

(参考数値)

専門家チーム員・巡回相談員	H18	H19	増減
派遣学校数	139	196	57

(6) 体育・健康教育の充実

施策の目標

体育・スポーツ活動の充実や食育の推進等を通じて健やかな体を育成するとともに、地域と連携しながら学校安全の確保に努める。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年5月18日（金）]

○平成19年度学校運動部活動活性化事業について

- ・学校の指定に際しては、強いところだけを強化するのではなく、そうでないところ、何もないうところに種を蒔くということも考えるべきだ。
- ・いじめの問題で、スポーツ活動によりいじめが生まれていることも一部にはある。その学校の指導者だけで閉鎖的に指導するのではなく、レベルの高い試合や指導を体験することはよいことだ。閉鎖的にならず、運動部だけでなく地域を活性化できるよう、種を蒔いて根を張ってこの事業を進めてほしい。

[平成19年6月1日（金）]

○自主的な活動への支援について～犯罪のない安全・安心岡山県づくり～

- ・子どもたちの安全は、地域の協力なくしては成し遂げられない。報道の力を頂くためにも、安全・安心岡山県づくり県民会議の登録会員制度、自主活動参加者への見舞金制度の創設、子ども110番の家・セーフティーコーンを設置するモデル小学校区の募集など、この一連の事業内容について、報道関係の方によく説明し報道してもらえるようにしてほしい。

[平成19年11月16日（金）]

○わくわくスポーツデーの実施について

- ・一人の子どもは岡山県民であり市民であり町内会の一員であり、いろいろなところから声がかかって全部に参加して、子どもたちは疲れている。これをコーディネートするのが県の役割ではないのか。日時の設定を県の都合だけで決めるのではなく、地域の実態に合わせて、地域と共に取り組んでいくことが大切である。

[平成19年12月21日（金）]

○平成18年度体力テストの結果について

- ・スポーツのできる子どもとできない子どもの両極端になってきている。
- ・意識して子どもの体力を戻す努力をしないといけない。

○ 施策の概要

ア 体育・スポーツ活動の充実

(ア) 教員の指導力向上

ア) 学習指導要領の徹底・充実のための研修会の開催

研修会名	実施日数	会場	参加人数	研修内容
小中高等学校 体育担当者研修会	4日	岡山県総合教 育センター	583人	体育経営の在り方と指導上の諸課題

イ) 指導力向上のための講習会の開催

講習会名	実施日数	会場	参加人数	講習内容		
体育実技講習会	幼稚園	延べ2日	赤磐市・倉敷市	97人	集団遊びの指導法	
	小学校	延べ4日	岡山県総合教育センター	99人	基本の運動、ゲーム、器械運動 水泳、表現運動	
	中・高等学校	延べ6日	岡山県総合教育センター 桃太郎アリーナ	162人	体づくり運動、バレーボール 卓球	
武道指導者養成講習会	7日	岡山武道館	7人	柔道の基本動作 対人的技能とその指導法		
	延べ4日	岡山武道館 津山総合体育館	3人	剣道の基本動作 生徒の学習意欲を高める指導法		
体育実技補助指導者派遣事業等	内容		対象	水泳	器械運動	陸上競技ほか
	授業等における実技補助		教員・児童	17校	6校	7校

(イ) 体力づくりの推進

- ア) 学校における体力づくり推進の基礎資料とするため「学校体育指導資料第43号」を作成し、関係機関・学校に配付した。
- イ) 県下の公立小・中・高等学校で新体力テストを実施し、A段階取得者を表彰（バッジの交付）した。

区分	新体力テスト A 段階 取得者		
	男子	女子	合計
小学校	9,602人	7,560人	17,162人
中学校	3,378人	6,637人	10,015人
高等学校	5,679人	3,435人	9,114人

- ウ) 児童生徒の体力向上に向けて、これからの学校における体育及びスポーツ活動の在り方について、研究協議を行い、学校体育の一層の充実を図るため、岡山県体力づくり研究推進大会（176人参加）を開催した。
- エ) 小・中・高等学校体育連盟、学校体育研究連合会の組織の充実及び体力づくりに関する研究内容などについて指導・助言を行った。
- オ) 園児・小学校児童を対象に、運動に親しむきっかけづくりと体力向上を目的として、「感動！おかやまっ子スポーツチャレンジ事業」を実施した。

事業名	会場（実施日数）	参加人数	内容
わくわくスポーツデー事業	みまさかアリーナ みまさかラグビー・サッカー場（1日）	園児・児童と保護者 約1,500人	ダブルダッチ、サッカー教室、ニュースポーツ体験コーナー 等
	岡山ドーム（1日）	園児・児童と保護者 約1,000人	チャレンジランキング県大会、フットサル教室、スナッグゴルフ教室等
	きびじアリーナ（1日）	園児・児童と保護者 約2,500人	一輪車教室、陸上教室、体操教室 ニュースポーツ体験コーナー 等
みんなでチャレンジランキング事業	各学校 平成19年6月1日～平成20年2月8日	児童 22,834人	長なわとび、ドッジパスラリー、一輪車リレーなど様々な運動種目（34種目）にチャレンジし、記録の登録によりホームページ上で競い合う。

(ウ) スポーツ活動の活発化

ア) 体育大会の充実

ア 第45回岡山県中学校総合体育大会（7,807人参加）と第46回岡山県高等学校総合体育大会（10,901人参加）を開催したのをはじめ、各種大会を共催し、中・高校生のスポーツ活動の活発化、スポーツ精神の高揚、競技力の向上に努めた。

イ 小学校児童を対象として県内7地区で、水泳記録会（3,490人参加）及び陸上運動記録会（10,092人参加）を開催した。

ウ 344人の中学生と822人の高校生を全国中学校体育大会・全国高等学校総合体育大会・全国高等学校定時制通信制体育大会等へ派遣した。

エ 平成19年度中国高等学校選手権大会が中国五県で開催され、岡山県では、水泳（倉敷市：849人）、バレーボール（岡山市：520人）、バドミントン（岡山市：500人）、登山（真庭市：128人）、自転車（玉野市：88人）、空手道（岡山市：339人）の6競技種目を開催した。

イ) 運動部活動の振興

ア スポーツエキスパート活用事業

中・高等学校におけるスポーツ活動の振興・充実を図るため、次の各学校へ民間の優秀な指導者を派遣した。（中学校30部、高等学校40部）

(中学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
剣道	岡山・福南中	バスケットボール	備前・備前中	ソフトテニス	瀬戸内・牛窓中
	玉野・日比中		高梁・高梁中		津山・津山西中
	備前・吉永中	美作・美作中	真庭・美甘中		
	赤磐・高陽中	岡山・後楽館中	岡山・桑田中		
サッカー	津山・鶴山中	柔道	倉敷・連島中	卓球	倉敷・多津美中
	倉敷・南中		岡山・光南台中		井原・芳井中
	倉敷・船穂中		玉野・宇野中		総社・昭和中
バレーボール	勝央・勝央中	野球	奈義・奈義中	ソフトボール	津山 久米中
	倉敷・水島中		岡山・藤田中		美作・作東中
	浅口・寄島中		笠岡・白石中		美咲・旭中

(高等学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
新体操	津山高	サッカー	岡山朝日高	ソフトテニス	玉野高
バスケットボール	津山東高		水島工業高		硬式野球
	岡山芳泉高	笠岡工業高	岡山城東高		
	岡山工業高	笠岡商業高	倉敷工業高		
	高梁高	勝山高	高梁城南高		
バレーボール	井原高	ラグビー	岡山一宮高	テニス	邑久高
	和気閑谷高	バドミントン	津山工業高	ボート	岡山操山高
	岡山東商業高		倉敷南高	フェンシング	岡山東商業高
卓球	倉敷天城高	ソフトボール	玉島高		なぎなた
	倉敷鷺羽高	ボクシング	倉敷中央高	アーチェリー	勝間田高
	玉野光南高		ソフトテニス	新見高	射撃
ハンドボール	西大寺高	ソフトテニス	岡山工業高	射撃	高松農業高
	久世高		東岡山工業高		
	総社高		倉敷古城池高		

イ 武道指導者派遣事業

中・高等学校における武道の振興・充実を図るため、次の各学校へ民間の優秀な指導者を派遣した。(中学校5校、高等学校5校)

(中学校)

種目	学校名
剣道	岡山・御津中 倉敷・東陽中 津山・中道中
柔道	倉敷・倉敷第一中 津山・津山東中

(高等学校)

種目	学校名
弓道	岡山朝日高 玉島高 玉島商業高
柔道	倉敷工業高
空手	津山商業高

ウ 中・高等学校における運動部活動の望ましい在り方と、指導者の指導力の向上を図るため、延べ12日間にわたって運動部活動指導者研修会(延べ337人参加)を開催した。

・4種目(軟式野球、ハンドボール、陸上競技、ソフトテニス)

エ **新**学校運動部活動活性化事業

優秀な専門的指導力を有する高等学校運動部を核として、近隣地域の中学校運動部と連携し、地域ごとに指導者や生徒の交流を促進させ、中・高等学校運動部活動の活性化と充実を図ることを目的とし、6校の運動部で合同練習会(年間6回程度)と交流戦フェスティバル(年間1回)を実施した。

学校名	種目	交流戦フェスティバル		
		日時・場所	招待校(県外)	参加中学校数 人数
西大寺高校	剣道	平成19年8月16日 岡山市立六番川 水の公園体育館	兵庫育英高校 広島女子商学園	20校 178人
東岡山工業高校	ハンドボール	平成19年9月29日 ～30日 きびじアリーナ	京都選抜 京都府立洛北高校	6校 85人
倉敷工業高校	柔道	平成19年8月27日 ～28日 倉敷武道館	京都共栄学園高校 名古屋工業高校 清風高校・高水高校 神港学園神港高校 日生学園高校 兵庫県立有馬高校	20校 178人
玉島高校	バスケットボール	平成19年9月30日 玉島高校 玉島商業高校	市立高知商業高校	7校 117人
玉野高校	サッカー	平成19年12月29日 灘崎町総合公園	鳥取県立米子東高校	3校 40人
和気閑谷高校	ソフトテニス	平成19年10月27日 ～28日 日生総合運動公園	済美高校	5校 45人

イ 健康教育の充実

(ア) 県立学校児童生徒の健康診断の実施

児童生徒の健康診断として、結核、心臓、尿等の検診を行った。特に、心電図自動解析機により解析を行い、心臓疾患の管理、指導の充実を図った。

区分	検査事項	対象	受診者数	
児童生徒	結核検診	問診調査	小、中 全員	1,253人
		X線撮影	高1、高4 全員	12,478人
	心臓検診	心電図検査	小1、中1、高1 全員	13,239人
		心音図検査	小1、中1 全員	417人
	寄生虫検査	幼、小1、2、3 全員	292人	
尿検査	幼、小、中、高 全員	38,713人		

(イ) 学校環境保全、健康管理指導

ア) 学校環境保全、健康管理指導の充実

学校環境衛生の充実、向上を図るため、関係機関・団体の協力を得て担当者の研修会を開催するとともに、保健教育担当者の資質向上のため、下表の研修会等を開催した。

また、県下全学校(園)を対象に、児童生徒等の健康状況及び各学校(園)の保健活動の状況を取りまとめた「学校保健概要」を作成・配布し、学校保健の向上を図った。

研修会名	開催日	会場	参加人数
学校保健研修会	H20. 1. 31	県衛生会館	628人
全国学校保健主事研究協議会	H19. 8. 2～3	倉敷市芸文館	510人
中国地区学校保健研究協議大会	H19. 8. 23～24	岡山市民会館等	871人
養護教諭研修会	H19. 12. 10 H19. 12. 17	県総合教育センター	664人

イ) 大気汚染対策等

大気汚染地区の生徒・教職員の健康管理のため、「岡山県大気汚染防止夏期対策要綱」に基づき、大気汚染情報等の発令時には関係地域の県立学校への通報連絡を行った。

(ウ) 学校安全の充実

ア) 交通安全対策の強化

児童生徒等の交通事故防止対策及び交通安全教育の強化、充実を図るため、次の事業を行った。

ア) 学校健康教育講習会

学校における健康教育に関する指導体制の充実を図るため、各学校の学校保健・安全担当者等を対象に講習会を開催し、指導者の資質向上に努めた。

イ) 高校生の交通安全対策

岡山県高等学校交通安全教育推進連絡協議会並びにブロック協議会(7ブロック)で、地域の実情に即した交通安全対策を協議し、推進した。

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	計	
19年(A)	死者	1人	1人	1人	2人	5人
	傷者	461人	807人	575人	945人	2,788人
18年(B)	死者	0人	2人	1人	1人	4人
	傷者	458人	775人	541人	928人	2,702人
前年比 (A-B)	死者	1人	△1人	0人	1人	1人
	傷者	3人	32人	34人	17人	86人

イ) 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

ア) 地域ぐるみでの学校安全に関する先進的取組を実施する地域を指定し、区域内における実践的な取組を推進した。(モデル地域：備前市)

イ) 地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)を各警察署単位に配置し、警察官OB

と教員OBの協力を得て、各学校の巡回指導と評価を実施した。（スクールガード・リーダー51人委嘱）

- リ) 子どもの安全に関する情報の効果的な共有システムに関する調査研究
モデル地域において、地域の実態に応じて、ITを活用した学校安全の情報共有システムの導入等に関する実践的な取組を推進した。（モデル地域：総社市）
- エ) **新**通学路の安全確保のためのスクールバス活用推進事業
地域の既存の資源である路線バス（町民バス等）のスクールバスとしての活用について検討・協議及び試行的な運行を行った。（モデル地域：久米南町）
- ロ) **新**学校安全教育充実のためのCD-ROM作成事業
学校における安全管理体制を充実させるとともに、教職員の危機管理意識の向上と児童生徒の危険予測能力や危険回避能力の向上をめざし、学校安全教育に活用できるCD-ROMを作成した。

（エ）学校・地域保健連携推進事業

児童生徒が学校生活を心身ともに健康で安全に送ることができるよう、児童生徒の様々な健康問題に対応できる専門家や専門医を地域研修会等に派遣し、健康相談活動や健康教育の充実に努めた。

（オ）性教育の指導に関する実践推進事業

学校における児童生徒への効果的な性教育の指導方法について研究し、指導資料「性に関する教育の手引」を作成した。

（カ）薬物乱用防止教室推進事業

薬物乱用防止教室を開催し、薬物乱用防止教育の効果的な進め方について研修し、指導者の資質向上を図るとともに、指導教材の配布等により指導の推進を図った。

（キ）児童生徒の生活習慣と健康等に関する実践調査研究事業

新見市神郷地区をモデル地域として指定し、児童生徒の睡眠や食生活の状況が健康や意欲に及ぼす影響等の調査研究を実施し、食に関する指導を含めた生活習慣の改善に役立つ資料や教材の開発を行った。

（ク）学校給食の充実

ア) **新**食育から広げる生活リズム向上プラン

子ども達の生活リズムを確立するとともに、家庭や地域の連携を図るため、モデル地域（井原市・高梁市・赤磐市・美作市・奈義町・和気町）を指定し、食育を中心とした子どもの生活リズム向上のための実践活動等の調査研究を実施し、中間報告をまとめ県下への普及を図った。また、シンポジウム開催（参加人数800人）や「我が家の朝食自慢コンクール」（応募件数732件）を実施した。

イ) 学校給食の管理及び指導の充実向上のための研修会等

児童生徒の望ましい食習慣と好ましい人間関係を育成するなど、教育の一環としての学校給食の一層の充実を図る上から、給食指導、衛生管理等についての各種研修会を開催し、教職員の指導力の向上に努めた。

ウ) 栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業

子どもたちに望ましい食習慣等を身に付けさせるために「食育推進地域」（岡山市・真庭市）を指定し、栄養教諭が中核となって、家庭や地域の団体（PTA、生産者団体、栄養士会等）等と連携・協力して組織的・体系的な食育推進を図った。

エ) 地域に根ざした学校給食推進事業

児童生徒の食への関心を高め、食生活を見直し生活習慣の改善を図るために、「食育推進地域」（総社市）を指定し、学校と生産者等の関係者の連携協力のもと、学校給食において地場産物や米飯を積極的に取り入れ、これらを生きた教材として食に関する指導の中で活用しながら、組織的・体系的な食育推進を図った。

オ) 学校給食施設設備の整備促進

学校給食施設設備について、次のとおり整備を図った。

区 分	学 校 数 等					補助対象 事業費 (千円)	左のうち 国庫補助額 (千円)
	小学校	中学校	定時制 高等学校 特別支援 学 校	共 同 調理場	計		
施設整備	1	0	0	2	3	379,552	228,385

か) 食中毒対策

腸管出血性大腸菌O157やノロウイルスなどによる食中毒の防止対策を徹底するため、講習会等を開催した。また、県下全調理場の定期点検を実施し、衛生管理の徹底に努めた。

き) 米飯給食の推進と食事内容の充実向上

食事内容の充実と児童生徒の栄養に配慮した米飯の正しい食習慣を身に付けさせることを目的に、週3回以上の米飯給食の実施を促進した。

区 分	総 数	完 全 給 食 校 (A)	米飯給食 実施校 (B)	左の内訳 (実施回数別)			実施率 (%) (B) (A)	備 考 (%) (C+D) (B)		
				週2回	週2.5回 (C)	週3回 以上(D)				
H 18. 5. 1	小学校	校	433	428	428	0	0	428	100.0	100.0
		人	111,892	111,892	111,892	0	0	111,892	100.0	100.0
	中学校	校	164	153	153	0	0	153	100.0	100.0
		人	53,636	49,342	49,342	0	0	49,342	100.0	100.0
	計	校	597	581	581	0	0	581	100.0	100.0
		人	165,528	161,234	161,234	0	0	161,234	100.0	100.0
H 19. 5. 1	小学校	校	431	425	425	0	2	423	100.0	100.0
		人	111,424	111,424	111,424	0	766	110,658	100.0	100.0
	中学校	校	165	155	155	0	1	154	100.0	100.0
		人	53,823	49,868	49,868	0	452	49,416	100.0	100.0
	計	校	596	580	580	0	3	577	100.0	100.0
		人	165,247	161,292	161,292	0	1,218	160,074	100.0	100.0

(7) 人権教育の推進

施策の目標

学校の教育活動全体を通じて人権尊重の理念について理解を促し、一人ひとりを大切にする教育を計画的に推進する。

【教育委員会での主な意見】

[平成19年10月19日（金）]

○保護者向けリーフレット「STOP!いじめ」について

- ・いじめ対策行動推進会議の内容も分かりやすく書かれている。幼稚園の保護者が知っていてもよい内容だ。
- ・小学校に入るとすぐにいじめが起こることも考えられる。幼稚園の保護者にも配り、早い時期から取り組むことも大切だ。
- ・誹謗中傷の発信元が特定できる携帯を作ってくれるようメーカーに要請することはできないのか。例えば、その携帯の外側の色を緑色にしてもらって、緑色の携帯しか学校に持ってきてはいけないことにするなどできないのか。
- ・リーフレットは、もっと見やすく、ポイントをつかみやすいものにするべきだ。

[平成20年2月22日（金）]

○人権教育推進状況報告書のまとめについて

- ・人権教育はかつての同和教育から広がってきたという流れは分かる。その中で、人権という言葉についてであるが、社会的弱者に対する配慮が、イコール人権ということになりすぎては困る。基本的には、自由や平等とか言論の自由ということが人権である。そういうことを押さえた上で、社会的弱者への配慮を考えなければならない。

○人権学習ワークシート集「人権教育指導資料Ⅴ 人権学習ワークシート集（上）」について

- ・情報モラルなど新しい問題については、各県の知恵を交換しながら考えていってほしい。
- ・犯罪被害者の人権という箇所があるが、これが重視されるあまりに、被疑者の人権が軽視されているのではないだろうか。それから、被疑者や服役している人の家族への配慮もあると思う。それが原因でいじめられている子どももいる。

○ 施策の概要

ア 人権教育の総合的な推進

(ア) 人権教育推進委員会 「岡山県人権教育推進プラン」に基づく人権教育の推進についての審議

イ 研究推進校園の指定

- (ア) 人権教育開発事業（文部科学省指定） (2校)
(イ) 人権教育研究推進校指定事業 (4校)

ウ 教職員等の研修

- | | | |
|-------------------------|-------|------|
| (ア) 市町村教育委員会教育長等人権教育研修会 | (1会場) | 37人 |
| (イ) 就学前人権教育研修会 | (1会場) | 84人 |
| (ウ) 小・中学校管理職人権教育研修会 | (2会場) | 373人 |
| (エ) 小・中学校人権教育担当者研修会 | (4会場) | 772人 |
| (オ) 高等学校等管理職人権教育研修会 | (1会場) | 99人 |
| (カ) 高等学校等人権教育担当者研修会 | (3会場) | 224人 |
| (キ) 人権教育交流体験研修会 | (4会場) | 163人 |

(ク) 事務職員等人権教育研修会

(1会場 70人)

エ 調査事業・指導資料等整備

(ア) 人権教育活動調査

(イ) 人権教育指導資料作成・配付 (「人権学習ワークシート集(上)」ほか)

(ウ) 保護者向けリーフレット作成・配付 (「STOP!いじめ」)

オ 「人権の世紀21おかやま」推進事業

(ア) 就学前人権教育推進事業 (実施市町村数：5市町)

(イ) 子どものエンパワーメント育成事業 (実施市町村数：5市町)

カ 学校・地域社会の連携

(ア) 人権教育総合推進事業 (17校園)

(イ) 人権教育講座「ワークショップのすすめ」 (4会場 261人)

「学校教育の充実」施策に関する成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○学校生活に満足している割合

[出典：高校生活に関する意識調査]

現況値 (H18.5)	目標値 (H23.5)	実 績 値						備考
		H18(H18.5)	H19(H19.5)	H20	H21	H22	H23	
79	80	79	79					横ばい

(単位：%)

○中高一貫教育・総合学科等の新しい形態の学校数

現況値 (H18.4)	目標値 (H23.4)	実 績 値						備考
		H18(H18.4)	H19(H19.4)	H20	H21	H22	H23	
24	29	24	27					増

(単位：校)

○県立学校の授業等を支援している外部人材の数

[出典：社会人講師活用状況調査]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21	H22	H23	
1,548	1,650	1,747	1,777					目標超

(単位：人)

○特別支援学校教諭の専門免許取得率

[出典：文部科学省調査]

現況値 (H17.5)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H18.5)	H19(H19.5)	H20	H21	H22	H23	
52.1	60	57.0	66.6					目標超

(単位：%)

○小・中学校の給食における県産農林水産物の使用割合

[出典：文部科学省調査]

現況値 (H18.6)	目標値 (H23)	実 績 値						備考
		H18(H18.11)	H19(H19.6・11)	H20	H21	H22	H23	
34	40	38	41					目標超

(単位：%)

○県立学校の耐震化

[出典：文部科学省調査]

現況値 (H18.3)	目標値 (H24.3)	実 績 値						備考
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21	H22	H23	
48.2	65	51.4	55.4					目標超

(単位：%)

4 伝統文化の振興

(1) 文化財の保存と活用

施策の目標

貴重な文化遺産の適切な保護・保存を進めるとともに、文化財の公開や史跡等の整備による活用を推進し、文化財への関心を高める。

【教育委員会での主な審議内容】

[平成19年10月5日(金)]

○世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書について

「資産名称：近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績－」

○ 施策の概要

ア 文化財の保存

(ア) 文化財の調査

- ア) 文化財保護審議会
県指定文化財候補物件の調査・審議・答申
- イ) 文化財の指定
 - ア) 国指定重要文化財・記念物

種別	名称	指定年月日
建造物	旧旭東幼稚園園舎<岡山市>	平成19年6月18日
史跡	彦崎貝塚<岡山市>	平成20年3月28日
史跡	大谷・定古墳群<真庭市>	〃

イ 県指定重要文化財・記念物等

種別	名称	指定年月日
建造物	秀天橋<玉野市>	平成20年3月7日
建造物	児島湾開墾第一区の樋門群<岡山市>	〃
無形民俗文化財	太鼓田植<新見市>	〃

ウ 登録有形文化財(建造物)

名称	数量	登録年月日
岡山大学情報展示室(旧陸軍第十七師団衛兵所) <岡山市>	1棟	平成19年5月15日
岡山大学医学部門衛所・正門 (旧岡山医科大学門衛所・正門)<岡山市>	1棟1対	〃
赤磐市吉井郷土資料館(旧仁堀尋常高等小学校本館) <赤磐市>	1棟	〃
ノートルダム清心女子大学ノートルダムホール本館・東棟<岡山市>	2棟	平成19年7月31日
龍乗院本堂・鐘楼門・石段及び石垣<玉野市>	2棟1所	〃
岡山県立高松農業高等学校資料館 (旧岡山県立農学校堆肥舎)<岡山市>	1棟	平成19年10月2日

岡山県立倉敷天城高等学校武道場 (旧岡山県天城中学校武道場)〈倉敷市〉	1棟	〃
旧松井家住宅主屋〈総社市〉	1棟	〃
旧山手村役場〈総社市〉	1棟	〃
備中屋高祖酒造主屋・蔵屋敷・圧搾蔵・井戸及び洗い場・煙突〈瀬戸内市〉	3棟1基1所	〃
J R 伯備線美袋駅駅舎	1棟	平成20年3月7日

ウ) **新**「岡山県の会陽の習俗」映像記録作成

平成14年度に国により「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された「岡山県の会陽の習俗」について、学識経験者による映像記録作成委員会等の指導・助言のもと、現在実施されている会陽の習俗のうち、5寺社について撮影を行った。

(イ) 有形文化財等の管理と保存修理

国・県指定文化財の保存修理、史跡整備等を県事業及び補助事業として実施した。

指定別	事業主体	事業名	所在地	平成19年度の事業内容	事業年度
国指定	(宗)吉備津神社	本殿及び拝殿 建造物保存修理	岡山市	本殿及び拝殿の修理	H16～20
	谷川文子	林家住宅 建造物保存修理	美作市	長屋門及び米倉屋根葺替等修理	H17～19
	(宗)中山神社	中山神社本殿 建造物保存修理	津山市	本殿の修理	H19～21
	(財)竜王会館	旧野崎家住宅 防災施設整備	倉敷市	防災施設整備	H19
	岡山市	岡山城跡 記念物保存修理	岡山市	本丸本段の保存修理、本丸下の段の確認調査	H4～
	岡山市	賞田廃寺跡 記念物保存修理	岡山市	東塔基壇の復元整備、南大門想定部分の発掘調査等	H13～20
	赤磐市	備前国分寺跡 記念物保存修理	赤磐市	史跡整備に係る発掘調査	H18～23
	津山市	津山城跡 記念物保存修理	津山市	天守曲輪西半整備等	H18～29
	総社市	鬼城山 記念物保存修理	総社市	西門第0水門間版築土塁の復元工事等	H17～22
	(宗)本蓮寺	朝鮮通信使遺跡 牛窓本蓮寺境内 記念物保存修理	瀬戸内市	客殿保存修理	H18～22
	倉敷市	倉敷市 倉敷川畔 伝統的建造物群保存地区保存修理	倉敷市	保存地区内民家等の修理	S54～
	高梁市	高梁市 吹屋 伝統的建造物群保存地区保存修理	高梁市	保存地区内民家等の修理	S52～
	岡山市	大廻小廻山城跡 史跡等買上げ	岡山市	史跡指定地等の買上げ	H18～27
県指定	(宗)安住院	安住院多宝塔 保存修理	岡山市	屋根葺替等	H18～22
	(宗)宝福寺	宝福寺仏殿屋根 保存修理	総社市	屋根葺替等	H18～20
	(宗)三尾寺	三尾寺本堂 保存修理	新見市	屋根葺替等	H18～20
	(宗)荒戸神社	荒戸神社本殿 保存修理	新見市	屋根葺替等	H18～19
	(宗)本久寺	本久寺本堂 保存修理	和気町	屋根葺替等	H18～22

その他、指定文化財管理、文化財保護管理指導、防災設備保守点検等を県事業及び補助事業として実施した。

(ウ) 銃砲刀剣類登録・美術刀剣類製作承認

(エ) 無形民俗文化財の継承と発信

ア) 中国・四国ブロック民俗芸能大会

平成19年12月2日、高知県の県民文化ホールにおいて開催され、真庭市の「大宮踊（国指定重要無形民俗文化財）」を派遣した。

イ) ふるさと文化再興事業の実施

地域の伝統文化の継承・発展を図るため「伝統文化総合支援研究事業のマスタープラン」に基づき、民俗芸能等の伝承基盤の整備を図った。

(県内25団体：伝承者養成、用具等整備、映像記録等作成)

ウ) 伝統文化子ども教室事業の実施

(財)伝統文化活性化国民協会により、伝統文化を次世代に継承させるため、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などを計画的・継続的に体験・修得できる「伝統文化子ども教室」を実施した43団体への支援が行われた。

(オ) 埋蔵文化財の保護・保存

ア) 試掘・確認調査の実施

原因	遺跡名	所在地	実施期間	内容	摘要
国立病院伊福公務員宿舎建設	伊福定国前遺跡	岡山市	H19.4	弥生～中世集落	試掘調査
一般県道吉備津松島線道路改築	上東中嶋遺跡	倉敷市	H19.4～5 H19.11	縄文土器片、室町時代 包含層・柱穴	試掘調査
国立病院看護学生寮建設	田益田中遺跡	岡山市	H19.5	弥生時代集落	確認調査
一般県道長野高松線単県道路改築	高松城水攻め 鳴谷川遺跡	岡山市	H19.9	遺構・遺物未確認	確認調査
主要地方道岡山吉井線道路改築	遺跡名なし	和気町	H19.9	古墳未確認	試掘調査
ため池等整備事業	遺跡名なし	赤磐市	H19.9	古墳未確認	試掘調査
特別名勝岡山後楽園史跡等保存整備事業	岡山後楽園	岡山市	H19.9～10	江戸時代庭園	確認調査
一般県道三浦勝北線道路改築	姥ヶ途遺跡	津山市	H19.12～H20.1	古墳時代集落	確認調査
一般県道服部停車場線道路改築	南溝手遺跡	総社市	H20.1～2	古墳時代～中世集落	確認調査
県庁舎耐震・UD化等整備事業	岡山城二の丸跡	岡山市	H20.1～2	岡山城内堀	確認調査

イ) 埋蔵文化財緊急調査、報告書作成のための資料整理

原因	遺跡名	所在地	実施期間	内容	摘要
一般国道180号総社・一宮バイパス建設	南溝手遺跡 窪木遺跡	総社市	H19.4～5 H19.4～H20.3	弥生～中世集落	発掘調査 整理
中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	八幡山遺跡ほか	美作市	H19.6～H20.3	縄文～近世集落	整理
旭川放水路(百間川)改修	百間川原尾島遺跡・今谷遺跡	岡山市	H19.4～H20.3	弥生～中世集落・水田	整理
一般県道吉備津松島線道路改築	中撫川遺跡	岡山市	H19.4～11 H19.12～H20.3	弥生～古墳時代遺構・ 室町～近世遺構	発掘調査 整理
都市計画道路竹田升田線街路改築	中島城跡 中井遺跡	岡山市	H19.4～H20.2 H20.3	中～近世集落・屋敷	発掘調査 整理
主要地方道御津佐伯線緊急地方道路整備事業	八塚古墳群	赤磐市	H19.9～12 H20.1～3	古墳時代古墳	発掘調査 整理
都市計画道路大谷一宮線街路改築	美作国府跡	津山市	H19.4～H20.3	弥生～中世集落	発掘調査
主要地方道岡山吉井線(美作岡山道路)道路改築(佐伯IC以北)	小塚の谷古墳 二本木遺跡	和気町	H19.4～9	弥生～中世集落	発掘調査

主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)道路改築(熊山IC以南)	婦本路古墳群	赤磐市	H19.4~9	古墳時代古墳	発掘調査
一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業	延寿寺跡 倉ヶ市遺跡 下土田遺跡	岡山市	H19.10~H20.3	縄文~中世集落等	発掘調査
特別名勝岡山後楽園史跡等保存整備事業	岡山後楽園	岡山市	H19.11~H20.2 H20.3	江戸時代庭園	発掘調査 整理
主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)地方特定道路整備事業(アクセス道:山陽道以南)	鍛冶屋D遺跡	岡山市	H19.4~8 H20.1~3	縄文~平安時代集落	整理
鬼城山城内確認調査	史跡鬼城山	総社市	H19.7~12 H20.1~3	古代山城	確認調査 整理

り) 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書作成

報 告 書	摘 要
中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設に伴う発掘調査	八幡山遺跡ほか (213)
一般国道180号総社・一宮バイパス建設に伴う発掘調査2	南溝手遺跡ほか (214)
旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査XVII	百間川原尾島遺跡7ほか (215)
一般国道374号(美作岡山道路)道路改築に伴う発掘調査	大河内遺跡ほか (216)

() は、報告書番号

イ 文化財の活用

(ア) 文化財の公開と普及・啓発

了) 県立博物館における資料の公開・普及活動

平常展示、特別展示等を開催、また、博物館講座を実施した。

名 称	内 容	期 日	入館者数
平常展 春季展 夏季展 秋季展 冬季展 春季展	岡山県の歴史と文化	平成19年3月15日~平成19年6月10日 平成19年6月14日~平成19年9月9日 平成19年9月13日~平成19年10月14日 平成19年11月23日~平成20年3月9日 平成20年3月14日~平成20年4月6日	12,863人
特別展	「吉備津神社」	平成19年10月19日~平成19年11月18日	6,703人
	「朝鮮通信使と岡山」	平成20年2月8日~平成20年3月9日	5,927人
企画展	「備前焼~炎が生みだす 窯変の美~」	平成19年4月19日~平成19年6月10日	9,063人
	「おかやま発掘最前線 ここまでわかった古代吉備」	平成19年7月20日~平成19年9月9日	5,254人
交流展	ミュージアムブリッジin おかやま・かがわ 「高松松平家の名宝II」	平成20年1月5日~平成20年2月3日	5,334人
博物館講座	岡山県の歴史と文化	平成19年6月5日~平成19年7月5日	参加者119人

い) 吉備路風土記の丘等史跡の公開・普及活動

岡山県立自然公園条例に基づき、特別地域内の風致景観と遺跡を一体的に保存し、かつ公開を行った。

岡山県立吉備路郷土館では、常設展示以外に、吉備路とその周辺の歴史を中心とした企画展示を開催するとともに、歴史講座等を実施した。

名 称	内 容	期 日	入館者数
企 画 展	くらしのなかの水と炎	平成19年10月13日～平成19年11月25日	1,113人
吉備路郷土館講座	歴史講座、自然講座、体験講座等	平成19年5月20日～平成20年3月9日	参加者 445人

り) 古代吉備文化財センターにおける普及啓発事業

ア 埋蔵文化財発掘調査概要報告会

名 称	会 場	期 日	参加者数
大地からの便り2007	岡山県立美術館	平成19年8月25日	160人
高島のむかし	岡山市立高島公民館	平成19年10月22日～26日	350人
大地からの便り2007 Part 2	下湯原温泉ひまわり館	平成19年11月9日～14日	390人
	真庭市役所北房支局	16日～21日	53人
	久世エスパホール	23日	100人
	勝山郷土資料館	23日～12月3日	385人

イ 埋蔵文化財発掘調査現地説明会

遺 跡 名	所 在 地	期 日	参加者数
中島城跡	岡山市	平成19年6月9日	150人
婦本路古墳群	赤磐市	平成19年6月16日	230人
		平成19年8月4日	120人
小塚の谷古墳	和気町	平成19年8月4日	120人
美作国府跡	津山市	平成19年9月22日	150人
八塚古墳群	赤磐市	平成19年11月24日	222人
延寿寺跡	岡山市	平成20年1月26日	280人
岡山後楽園	岡山市	平成20年2月15日～17日	1,000人

ウ 発掘調査パンフレット作成

名 称
『岡山県赤磐市八塚古墳群 主要地方道御津佐伯線緊急地方道路整備事業（交通安全）に伴う発掘調査の成果』
『発掘美作国府跡 都市計画道路大谷一宮線街路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』
『発掘/高島のむかしIV 都市計画道路竹田升田線街路内の埋蔵文化財』

エ 考古学体験講座等

名 称	開 催 地	期 日	参加者数
考古学体験講座 第1回	岡山市	平成19年7月21日	40人
考古学体験講座 第2回	岡山市	平成19年10月20日	33人
考古学体験講座 第3回	岡山市	平成20年3月8日	43人
考古学野外講座 第1回	真庭市	平成19年5月26日	62人
考古学野外講座 第2回	笠岡市	平成20年1月19日	66人

オ 展示室企画展

名 称	内 容	期 日
企画展1	「百間川沢田遺跡・百間川兼基遺跡」	平成19年5月8日～7月18日
企画展2	「総社遺跡・鹿田遺跡」	平成19年7月20日～10月14日
企画展3	「おかやまの武器と武器」	平成19年10月16日～平成20年1月14日
企画展4	「まにわの遺跡」	平成20年1月16日～4月20日

カ 鬼城山城内確認調査

名 称	会 場	期 日	参加者数
夏休み青少年鬼ノ城教室	史跡鬼城山（総社市）	平成19年8月18日	17人
第1回城内調査大公開	史跡鬼城山（総社市）	平成19年9月10日～16日	760人
第2回城内調査大公開	史跡鬼城山（総社市）	平成19年12月3日～14日	481人
鬼ノ城うおーく	史跡鬼城山（総社市）	平成19年10月27日	39人
鬼ノ城植樹	史跡鬼城山（総社市）	平成20年3月15日	31人

キ 施設の見学 （11小学校 678人）

ク 展示室入館者数 （4,124人）

（イ）史跡等の整備

ア) 津島遺跡の史跡整備

津島遺跡史跡整備委員会等からの意見に基づき、掘立柱建物復元2棟、湿地跡、水田跡表示施設整備、照明、警報・防犯設備の整備等を行った。

イ) 津島遺跡普及・活用事業

ア 津島やよい講座4「現代に甦った弥生のムラ」平成19年9月22日

講座「津島遺跡の今とこれから」ほか全3講座 参加者97人

イ 歴史体験「津島遺跡！やよい体験」平成19年11月2日～6日

復元された竪穴住居及び掘立柱建物の公開

勾玉づくり、火おこし、もみすり、土器にさわると、文様付け体験 参加者6,500人



火おこし体験



「津島遺跡！やよい体験」のようす

ウ) 吉備津神社の本殿・拝殿修理公開

本殿及び拝殿の屋根の葺替並びに本殿内部の欄干等の木工事を行うとともに、平成19年4月～6月の各土曜日において、デスティネーションキャンペーンに合わせて修理公開事業を行い、約10,000人の参加者があった。

エ) 特別史跡旧閑谷学校の保存修理

聖廟の保存修理工事を行うとともに、平成19年10月27日及び28日に修理公開を行い、410人の参加者があった。

（ウ）吉備の国文化遺産活用事業

ア) **新**みんなで楽しもう！民俗芸能

平成19年11月4日に津山市のベルフォーレ津山で「おかやま子ども民俗芸能大会」を開催し、子どもたちによる民俗芸能の実演発表を行った。津山市立高田小学校による高田神社獅子舞他4団体が出演し、約450人の参加者があった。



高田神社獅子舞（津山市立高田小学校）



宮原獅子舞（県立江見商業高校）

<協働の成果>

子ども民俗芸能大会においては、各団体の指導者や地域のボランティア等の協力により、円滑な舞台進行ができた。

イ) **新**現地で体験！民俗芸能チャレンジ教室

平成19年10月21日、瀬戸内市立牛窓東小学校等で「ししこま」づくり、「唐子踊」見学、木造船槽漕ぎ体験、よこ笛づくりとだんじり囃子体験の体験教室を開催した。県内の小中学生等84名の参加があった。

ロ) **新**「おかやまの文化財」刊行事業

県内の国・県指定文化財等についての名称、所在地、解説、アクセス方法、公開状況、設備に関する情報を掲載し、文化財の一層の活用を図るためホームページを開設した。

運用開始時は県内の国・県指定文化財等のうち建造物235件についての情報を掲載した。

また、さらに子どもたちにも興味を持ってもらうためにキッズページも用意した。

ハ) 吉備の国歴史探検ツアー

日頃県立博物館を利用する機会の少ない地域の子どものために、史跡や博物館を見学するバスツアーを実施し、自分らの視点で文化財に親しむ楽しさを学んでもらった。備前発・真庭発・美作発の3コースで、107人の参加者があった。

ニ) ミュージアムブリッジinおかやま・かがわ

香川県との文化交流の一環として、香川県歴史博物館の館蔵品の中から、高松松平家に伝わる美術・工芸・書籍等の名品を紹介した。2年目の平成19年度は、和歌書や雛道具などから大名の風雅なくらしや、近代の松平家の歩みをたどった。平成20年1月5日から2月3日までの展示期間で、5,334人の入館者があった。

(エ) 「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業

平成19年7月から12月にかけて、古代山城鬼城山（総社市）の城内ほぼ中心部5か所の確認調査を実施し、その様相を明らかにし併せて調査を活用し、県民の文化財保護意識の向上を図った。

(オ) 文化財情報の発信

ア) 文化財地図情報システムの公開

岡山県全域の文化財情報をインターネットで公開した。

(公開データ 国・県指定文化財情報：約700件、遺跡情報：約22,000件)

イ) 県立博物館デジタルミュージアムの公開

インターネット上で、資料の紹介、検索サービスを提供した。また、歴史クイズ・読み物のコーナーで岡山県の歴史と文化を学習できるコンテンツの充実を図った。

(公開データ 考古分野：637件、美術工芸分野：1,151件、文書分野：4,267件、民俗分野：6,258件)

ウ 文化財保護推進体制の整備

(ア) 市町村文化行政担当者会議

平成19年6月29日、岡山県庁で平成19年度市町村文化財行政担当者会議を実施した。県・国の事業の概要及び手続き等、実務中心の研修を行い、県下の文化財保護行政の実務の充実を図った。

(イ) 文化財研修会

平成19年6月26日、岡山県立図書館において、県開発担当部局担当者等を集め、研修会を実施した。

エ 世界遺産暫定一覧表記載資産候補にかかる提案書の提出

文化庁文化財部記念物課からの照会に基づき、平成19年9月27日に、世界遺産暫定一覧表追加記載資産候補として、「近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績－」について、岡山市・備前市・赤磐市・和気町とともに、提案書を提出した。

資産に含まれる文化財は次のとおりである。

名 称	指 定 等	所 在 地
岡山後楽園	国 特別名勝・史跡	岡山市
旧岡山藩藩学	国 史跡	岡山市
旧閑谷学校	国 特別史跡	備前市
旧閑谷学校講堂、小斎、習芸斎及び飲室、文庫、公門	国 国宝・重要文化財	備前市
閑谷神社	国 重要文化財	備前市
旧閑谷学校聖廟	国 重要文化財	備前市
旧閑谷学校石堀	国 重要文化財	備前市
閑谷学校関係資料	国 重要文化財	岡山市
岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓	国 史跡	岡山市・備前市・和気町
倉安川吉井水門	県 史跡	岡山市
田原用水水路橋（石の懸樋）	県 重要文化財	赤磐市
井田跡	市 史跡	備前市
大多府漁港元禄防波堤	国 登録有形文化財	備前市
百間川大水尾旧堤	(未指定)	岡山市

「伝統文化の振興」施策に関する成果指標（「夢づくり協働指標」から）

○登録文化財の登録件数

現況値 (H18.7)	目標値 (H24.3)	実 績 値				備考		
		H18(H19.3)	H19(H20.3)	H20	H21		H22	H23
112	200	148	167					増

(単位：件)

Ⅲ 評価

1 岡山県教育委員会の活動に対する評価

平成19年度、岡山県教育委員会の各教育委員は、市町村教育委員会や学校、公安委員会など幅広い分野の関係者と積極的に意見交換を行い、県民の教育ニーズを把握することに努め、平成20年度の岡山県の教育行政の基本となる「岡山県教育行政重点施策」を決定しました。

また、個別の施策・事業等については、教育長を長とする教育委員会事務局からの協議・報告に対し方向性を決定するなど、広範囲にわたる教育行政施策を着実に推進してきました。

今後とも、計画的な学校・施設等への視察・訪問、意見交換等を実施し、これまで以上に現場の実態把握に努め、現在の岡山県の教育の現状を的確に踏まえつつ、新たな時代の岡山県を担う人材の育成に向けて、岡山県ならではの教育行政を推進していきます。

2 個別の施策・事業に対する評価

(1) 生涯学習の振興

県民一人ひとりが、学んだ成果を地域社会づくりに生かすことができる社会の実現を目指し、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」を開催し、官民の連携・協働による学習機会の充実、学習活動への参加や、人材育成、地域社会づくり等を推進することができました。また、県民が1年間に公立図書館から借りた本の数は増加しており、県民の学習拠点としての県立図書館の役割は大きく、施策の目標はほぼ達成できたと考えています。

今後、「まなびピア岡山2007」を通じて生まれた団体等のネットワークを一層拡充・発展させるため、生涯学習活動をサポートする「おかやま学びの輪」への加入を促進するとともに、加入団体相互の交流を図るなど、活動の活性化を進めていきます。

また、岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」を積極的に周知し、講師・ボランティアへの登録者数の増加や活用促進を図っていきます。

(2) 家庭・地域社会の教育力の充実

子どもたちの健やかな成長を促すため、子育てに関する学習機会の提供や相談・支援体制の整備などに努めるなど家庭の教育力の充実を図りました。

また、放課後、週末等における、地域の協力による子どもの活動支援など、地域社会の教育力の活性化に努めました。平成19年度は、地域の協力を得て、学校の余裕教室等に、安全で安心して活動できる活動拠点（放課後子ども教室）を県下144か所に開設し、放課後や週末における様々な体験活動や地域住民との交流を通し、大きな成果を得ることができました。

今後、総合的な放課後対策を推進するためには、各市町村の実情に合わせた計画・実施が必要ですが、各市町村にあっては実施計画の策定と、コーディネーターの積極的な配置等が必要です。県教育委員会としても市町村教育委員会に積極的に働きかけていきます。

さらに、学校教育と社会教育が一体となった地域ボランティア活動や子どもの読書活動の一層の推進を図るなど、学校・家庭・地域社会の連携を促進しました。

人権教育については、「岡山県人権教育推進プラン」等に基づき、人権問題についての理解と認識を深め、自らの課題として日常生活に生かせる人権感覚を身に付けるための教育・啓発を推進しました。

特に、市町村、民間団体等との協働により、交流体験研修やワークショップの手法等を取り

入れながら、研修、講座等の充実を図りました。また、市町村等の受講者を対象に人権教育指導者講座を実施し、リーダーの養成を行うなど、人権教育の総合的・効果的な推進を図ることができました。

今後とも、各種情報提供や連絡調整、資料整備、指導者養成等により、引き続き市町村を支援していきます。

（３）学校教育の充実

「確かな学力」と「豊かな心」の育成を重要な柱として、家庭・地域等との連携・協働を図りながら、様々な教育施策を総合的に推進してきました。また、県総合教育センターが開所し、学校の教育力や教職員の一層の資質向上を図るための研修や、多様なニーズに応じた学校への支援を積極的に行い、成果を上げることができました。

また、道徳教育の充実や体験活動を重視した教育の推進、いじめ・不登校問題などに取り組み、豊かな心の育成に努めました。

高等学校教育においては、多彩な才能をはぐくむ創意ある教育活動を展開するため、新しい観点に立った高等学校教育体制の整備に努めました。

学習環境の整備・充実を図るため、開かれた学校づくりに取り組むとともに、教職員の資質向上や施設・設備の整備・充実などに努めました。

特別支援教育においては、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育の推進に努めるとともに、その環境整備を進めました。

体育・スポーツ活動の充実や健康教育の推進を通して、健やかな体を育成するとともに、地域と連携しながら学校安全の確保に努めました。

人権教育については、学校の教育活動全体を通じて人権尊重の理念について理解を促し、一人ひとりを大切にする教育を計画的に推進しました。

平成19年度の「基本方針」に基づき、特に重点的に取り組んだ4項目に関する課題としては、次のことが挙げられます。

○ 「確かな学力」の育成

平成19年4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果公表（10月）を受けて、県下4地区で調査結果等の説明会を開催し、全ての小・中学校に授業改善プランの作成・実施を求めるとともに、モデル校を指定し授業改善の研究などに取り組みました。

しかし、平成20年4月実施の同調査により、2年連続で全国平均を下回ったこと、また、学校での補充的・発展的な指導、家庭での学習時間や自主的な学習態度などについて、改善が進んでいないことが明らかとなりました。

平成20年度からは、5年間を目途に「学力向上アクションプラン」に取り組み、指導主事等の派遣による授業改革のための校内研修支援や、学力の定着を図る到達度確認テストの実施等に取り組むこととしています。

県教育委員会としては、まず全国レベルを超えることを目標に掲げ、これまでの学力向上に向けた取組を検証し、市町村教委・学校と一体となって、子どもたちが意欲的に学習に取り組むための対策や、学校の地道で着実な取組を徹底させるなど、最大限の努力を続けていくことが課題です。

○ 「豊かな心」の育成

いじめ、不登校の対応については、スクールカウンセラーの全公立中学校への配置や教育相談体制の拡充などにより、その防止や早期解決に努めましたが、いじめの認知件数は、平

成18年度に比べ減少したものの、依然として高い水準にあります。また、不登校の出現率は、小学校・中学校・高等学校とも、全国に比べ高い状況が続いています。さらに、公立学校における学校内外での暴力行為の発生率も増加傾向にあります。

今後とも、教職員研修や教育相談体制の強化を図るとともに、規範意識や「豊かな心」をはぐくむため、地域の人材や伝統文化等を活用して、道徳教育や体験活動の充実を図っていくことが課題です。

また、各学校において、教職員が生徒指導の在り方をしっかりと共通理解した上で指導に当たることが重要ですが、道徳教育の在り方も併せて、今までの取組の効果を検証し、各学校での取組の参考となる県としての方針や対策について総合的に検討・協議し、各学校に還元していくことが課題です。

○ 教職員の資質向上

平成19年4月に開所した県総合教育センターでは、15年経験者研修の新設や学力向上、特別支援教育など、今日的な課題に適切に対応した研修の充実を図り、一定の成果を上げることができました。

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、子どもたちにとってより魅力的で分かる授業や達成感が得られる授業を提供し、一人ひとりの学習意欲を喚起し、「確かな学力」を身に付けさせることがより一層求められることから、指導主事を学校に積極的に派遣し、校内研修の支援、教職員の意識改革・資質向上を図る中で、全県を挙げた授業改革を進めていくことが課題です。

○ 特別支援教育の推進

近年、特別支援学校及び特別支援学級の在籍者数が急激に増加する中、学習上の支援・配慮を必要とする児童生徒の多様なニーズに対応する教育体制の整備や特別支援学校の整備等について、さらに検討を進めていくことが課題です。

(4) 伝統文化の振興

本県に伝わる貴重な文化遺産の適切な保護・保存を進めるとともに、県立博物館等での文化財の公開や史跡の整備による活用を推進し、県民の文化財への関心を高めるよう努めました。

津島遺跡史跡整備については、遺跡の重要性などについて、引き続き、様々な機会を通して広報し、周知に努めるとともに、史跡の公開・活用を促進して、文化財を理解し、親しむ機会を充実していきます。

伝統文化の保存伝承については、様々な機会を通して広報を行っていますが、子どもたちへの一層の周知に努めるとともに、引き続き発表の機会を確保していきます。

IV 点検・評価に関する有識者からの意見

岡山県教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検・評価について、岡山大学の田中宏二副学長及び国立教育政策研究所生涯学習政策研究部の笹井宏益総括研究官に御意見を頂きました。

田中宏二（岡山大学副学長）

1) 教育委員会の活動に対する評価

教育委員会は岡山県教育行政重点施策の決定に関わる重要な審議機関であるだけに、学校現場や市町村教育委員会への視察や意見交換に取り組み、広く県民のニーズを把握することに努めていることは評価できる。他方、事務局からの協議等事項について教育委員から意見が示されているが、提示された疑問や指示に対して事務局がどのように対応したかが必ずしも明確でない。事務局活動のPDCAサイクルを把握できる体制を欠いているように思える。加えて教育委員による意見や提案が具体的な施策にリンクしていくためには、提案に関連する情報の収集や提案の素案化を速やかに行う、例えば企画室のような組織が委員会を支える組織として必要と思われる。そのような委員会強化策を期待したい。

2) 個別の施策・事業に対する評価

学力向上、いじめや不登校、子どもの安全、教員のメンタルヘルス等の課題は多くの県において共通的な教育課題である。しかし、それらの取り組み方には地域の特性や課題特性を考慮した独自の対応が必要と思われる。岡山県も多くの対応策を実施しているが、文科省の推進する一般的な施策と岡山県の特徴ある教育施策との判別が点検・評価報告書からは見えてこない。他方で、生涯学習の振興においては全国生涯学習フェスティバル開催に伴う諸施策、県立図書館の利活用等に顕著な先進性が伺える。そこにみられる施策力を学校教育分野にも展開していただきたい。

笹井宏益（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）

岡山県教育委員会が作成した自己点検評価報告書や同県の教育に関する諸資料を読むと、県の教育行政が、時代の潮流を踏まえた大きな視座のもとで、県内の事情に配慮したきめの細かい施策を展開していることがよくわかる。例えば、学力向上、読書、NPO、食育、子どもの安全といった現代の教育界を象徴するキーワードが随所に見られるが、県の教育行政が現代的な政策課題を的確にとらえ、包括的かつバランスよく対応していることの証左であると考えられる。また、報告書に記載されているいくつかの指標から施策の実績をみても、着実にそれらの成果が上がっていることがうかがわれ、一定の成果をあげていると高く評価できる。

岡山県は、全国的にみても地域社会がしっかりしているところである。そこには、昔から受け継がれてきた魅力的な文化や自然が残り、かつそれらを支えてきた人々が暮らしている。県外の者から見ると、こうした状況は本当にうらやましい。社会環境の激変の中で、家庭や地域、そして学校での「教育力」の限界が話題になっているが、これからの教育の在りようを考えると、地域社会の中での「子どもの育ち」ということをもっと強調すべきであろう。地域に根ざした学校教育、地域とともにある家庭教育、そしてその地域を創造する市民パワーをどうしたら実現できるのか。現代の教育行政に課された最重要の課題に対して、岡山県がまず答えを出してもらいたい。長い歴史の中で素晴らしい地域社会をつくってきた岡山県なら、そのトップランナーになれるはずである。

上記の御意見において御指摘いただいた課題等については、当報告書の構成上の制約もあり、十分表現できていない部分もありますが、改善すべき点については、今後の施策及び次年度の点検・評価等に反映していきたいと考えています。

岡山県教育委員会委員（平成20年3月31日現在）

職 名	氏 名
委員長	橋本 信子
委員長職務代理者	中島 義雄
委員長職務代理者	高橋 香代
委員	大原 謙一郎
委員	清田 寂順
委員兼教育長	門野 八洲雄

意見を頂いた教育に関する学識経験者

職 名	氏 名
岡山大学副学長	田中 宏二
国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部総括研究官	笹井 宏益

(参考資料)

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 条例、規則等の制定改廃

平成19年度に制定改廃された教育関係の条例、規則等は次のとおりである。

(1) 改正された条例、規則等

【条例】

日付	題名
19. 6. 29	岡山県青年の家条例の一部改正 岡山県青少年教育センター閑谷学校条例の一部改正
19. 9. 28	岡山県立中学校設置条例の一部改正
19. 12. 25	岡山県県費負担教職員の給与等に関する条例の一部改正
20. 3. 18	岡山県社会教育委員の定数及び任期に関する条例の一部改正 岡山県教科用図書選定審議会の委員の定数に関する条例の一部改正

【規則等】

日付	題名
19. 6. 29	指定管理者の指定の申請等に関する規則の一部改正
19. 9. 28	学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正 岡山県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則の一部改正
19. 12. 25	岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正 教育職員の免許状に関する規則の一部改正 現業職員の給与に関する規程の一部改正
19. 12. 26	学校教育法施行規則実施細則の一部改正 教育職員の免許状に関する規則の一部改正 岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正
20. 3. 18	指定管理者の指定の申請等に関する規則の一部改正
20. 3. 25	現業職員の給与に関する規程の一部改正
20. 3. 28	岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正 岡山県青年の家規則の一部改正 岡山県青少年教育センター閑谷学校規則の一部改正 岡山県教育委員会の権限に属する事務の一部委任等に関する規則の一部改正 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正 岡山県教職員健康診断審査規則の一部改正 岡山県行政情報公開条例施行規則の一部改正 岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正 岡山県個人情報保護条例施行規則の一部改正 指導力不足等教員の取扱いに関する規則の一部改正

(2) 制定、廃止された条例、規則等

【条例】

日付	題名
20. 3. 18	岡山県立学校施設整備基金条例の制定

【規則等】

日付	題名
20. 3. 18	岡山武道館条例施行規則の廃止 岡山県津山体育館条例施行規則の廃止 岡山県美作ラグビー・サッカー場条例施行規則の廃止 岡山県備前テニスセンター条例施行規則の廃止 岡山県津山陸上競技場条例施行規則の廃止 岡山県教育委員会の権限に属する事務の一部の知事の補助機関等への委任に関する規則の廃止